忍藩から現代へ
人と発展

No.67
平成22年12月1日

忍郷友会々報

松平忠寿翁書

忍郷友会会報　第六十七号　目次

「２０１１年新たな歩みに向けて」……松平　忠昌……1
平成22年度　定時総会報告……小山　博……2
「法人関連三法への対応について」……松平　忠昌……4
「財団法人　忍郷友会とは…」……5
平成21年度　事業報告……6
収支決算書・貸借対照表……9
忍郷友会役員名簿……10
第25回　浮き城のまち行田
「少年の主張大会」……清水　龍男……11
忍郷友会会長賞作品①……藤間　大輝……11
忍郷友会会長賞作品②……鈴木啓一郎……12
第十回　三端懇話会……鈴木スイ子……14
進脩塾活動について……田代　敬二……16
読書推進運動について……大野　年司……18
江草基金に育まれて
～三端懇話会十回無事完了～……小山　博……19
平成22年度　会員名簿……21
第九回　全国藩校サミット松江大会……22
平成22年度　事業行事経過メモ……24
みすじの糸に魅せられて……井上　啓子……27
グローバルビジネスを乗り越えた四十年
小林邦雄氏の情熱・独創と
人育てに懸けた職業体験に感銘……渡邉　栄一……28
忍郷友会賞と私……小澤　誠邦……29
忍「忍城」と言う不思議な地名の由来とは…永島　健雄……30
俳句・短歌・川柳……31
コラム……33
御名刺掲載欄……35
編集後記……黒渕　陽夫……38

「2011年　新たな歩みに向けて」

財団法人忍郷友会
会長　松平忠昌

当会は、明治三十八年（一九〇五年）の発足以来一〇六年の歴史を有します全国でも比類のない財団法人であり、先輩諸氏を始めとする会員各位の揺ぎの無い郷土愛と献身的な奉仕の精神に支えられ、活動の柱を国や行田の宝である青少年の教育を支援することに置き、人材育成の為の草の根運動を展開してきております。

しかしながら、その存在意義が問われていることも今日の日本の社会が抱えている課題と重なるように思えます。現代の日本人、社会は歴史に裏打ちされた伝統的な美風を失い、精神を荒廃させるに任せ、自身喪失の状態にあるように見受けます。

斯かる風潮に少しでも改善を求め、自己を取り戻す為に、新たなことや周りの動きに任せるのではなく、古き良き文化と伝統に立ち返って、歴史とその知恵に学ぶことが重要になると思います。改革を迫られている今日、これを機会に捉えて当会の新たな歩みをご一緒に考えて参りたいと存じます。

さて、二〇一〇年の当会を振り返って見ますと、活動体制も整い、順調に各事業を展開できたことは、ご同慶の至りであります。

これも偏に会員各位のご協力と関係者の献身的なご尽力の賜物と感謝する次第であります。

一方、ご承知の通り、当会を取り巻く環境は激変しており、課題としては、法令改正に伴う当会「財団法人」の見直し、「東京支部の拡充」と財源の確保・会員の増強が上げられます。引続く景気の低迷、税収の不調、財政の悪化継続、等から法人の徹底的な見直しが推進されることが見込まれるために、移行する形態に関しても行政上の管理監督官庁「文部科学省」を埼玉県「教育委員会」に帰属すべき法人として、指導が強化される可能性がありますので、これらの懸案は議論を尽くし、具体化に向けた行動・活動を着実に推進・実施して参る必要があると考えます。

事業活動としての基本方針は変えることなく、「違いの判る人間を育成する教育への支援」に注力して行きたいと考えます。

継続する事業については、計画通りに完遂しました「三端懇話会」を除き、「少年の主張大会」、「読書推進」、及び「進脩塾」（素読教室、論語講座）の実施を中心にして参りたいと考えます。

他方、新たな取り組みとしては、行田市による「藩校サミット」の招聘が平成二十四年七月に決定しましたことをご案内します。具体論はこれからになりますが、行田市を全国に知らしめる活動として、当会も市に協力を惜しまない考えであります。

また、並行して進んでおりますイベントとして「のぼうの城」の映画化がありますので、これからの行田市は世間の注目を浴びる存在になる訳であり、期待して頂きたい話題と考えます。

国内に目を転じて見ますと、政局は菅政権に交代して、経済、外交を含めた政策運営も混乱・混迷を更に深めているように見受けます。

教育に関しても政策の改革がありましたが、その在り方が見直されており、地方自治体への展開も不透明でありますので、行政に対しては、当会として出来ることを支援し続けて参りたいと考えます。

海外では「中国問題」、「北朝鮮問題」、「財政危機」、等々があり、日本の齎されている外交や経済環境は厳しく、予断を許さない状況ですので、眼を離さずに注意していたいところであります。

これからの三年は、申し上げるまでもなく、日本と世界にとって重要な時期であり、当会も節目を迎えることになると考えます。この様な変化・変革の多様化の時代こそ青少年の教育・人材の育成が重要課題でありますので、「教育への支援」を軸に、我々は自分達の「出来ること」を着実に推進して、目標であります地元行田から日本や世界に羽ばたく若者を輩出するように活動して参りたいと思います。

就きましては、当会の活動・目標を十分にご理解頂き、本年も引続き宜しくご指導・ご鞭撻賜りますようにお願い申し上げまして、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

平成二十二年度 定時総会報告

事務局長　小山　博

平成二十二年六月十三日㈰午後二時より行田市内アイトピアにおいて総会及び懇親会を開催。総会に先立ち評議員会、理事会を開き、評議員四十一名（内委任状二十一名）理事十八名（内委任状六名）が出席、両会議とも成立した。

会議は寄附行為代十七条二項の規定に基づき、松平議長により議事が進行された。審議に先立ち評議員会議事録署名人に横川福治氏、井上啓子氏、理事会議事録署名人に碓井勝也氏、田代敬二氏を指名、それぞれ議事録署名人を受託した。

審議に入り、「第一号議案平成二十一年度事業報告」「第二号議案平成二十一年度収支決算報告」について小山理事（事務局長）が内容を説明、引続き保泉欣嗣氏が監事を代表して監査報告がなされ、松平会長が承認について諮り、審議の結果全員異議なく本案はそれぞれ可決承認された。以上をもって会議は終了し、議長は閉会を宣言した。

休憩を挟み、午後三時三〇分より総会が矢澤大和理事の司会により開会された。開会に先立ち矢澤理事より物故会員のご冥福を祈りたいという発言により会員一同起立し、心より黙祷を捧げた。（物故会員岩崎利一様　吹上）

会議は松平会長が議長席に着き、議事を進行、小山理事（事務局長）から同日開催された評議員会、理事会の審議内容、承認事項等会務報告がなされ、引き続き各事業委員長よりそれぞれの事業報告が配付資料に基き、説明された。

このあと来賓として行田市副市長羽鳥利明様、行田市教育長　丸山綱男様、行田商工会議所会頭　鈴木秀憲様、元忍藩主阿部家第二十二代ご当主　阿部正靖様より、お祝辞を頂いた。

その後本年栄えある「旭日小授章」を授章された本会会員　渡辺邦道様に、松平会長より記念品の贈呈を行った。

第二部　記念講演会

「四十年の会社生活を振り返って」
～グローバルビジネスの中で～

講師　㈱日立ＬＳＩシステムズ　常任監査役
小林邦雄

行田市出身で一九六八年日立製作所に入社された小林邦雄さんは一九七七年、当時度々の世界的経済変動で危機的状況にあった同社小諸工場に赴任しました。そこで小林さんは仲間の社員との危機意識の共有化と三現主義の徹底による情報の同時化で工場内の風通しを良くし生産性を高め技術とその開発力の向上に尽力されました。そしてやがて好運にも需要の爆発的な増大もあって市場も拡大し、画期的な新製品も誕生させ

て厳しい競争にも打ち勝ち同社の携帯電話機用の半導体部品は世界のトップシェアを占めるに至りました。

その功績により二〇〇三年小林さんは市村産業賞を受賞されました。小林さんはレイバーコストの上昇にも関わらず、技術革新と雇用を保持するため国内生産にこだわりましたが、これに応えた社員の士気の高まりと努力もあって、顧客にも充分な満足度を与えることでグローバル競争に生き残りました。それは小林さんの信望とリーダーシップにもよるところが大きかったものと参加者は感銘しておりました。

（関連記事が28ページにあります）

第三部　懇親会

牧川修一・典子　二人の熱唱に酔う！

忍郷友会の懇親会で一度は歌って頂きたい！とかねてより想い続けてきたが、気軽に修一氏にお話したところ快諾を得た。毎年十二月のクリスマスには、ガーデンパレスでコンサートを開いており、根強い人気がある。

牧川夫妻が唄うというので、ぜひ忍郷友会に入会させて欲しいと申込みがある程、牧川夫妻の唄はすばらしい。それはそうだろう。修一氏は二期会幹事で二期会（会員四〇〇〇余名）オペレッタスタジオ運営委員として活躍中であり、桐朋学園大学声楽科講師でもある。典子氏も二期会会員であり、海外にもたびたび招かれている才媛である。

そしてピアノは東京芸大音楽研究科卒で力強さと優雅な音色は私の心を酔わせた。

「時は歌とともに」と私達は懇親会前にワイン片手に、上質の歌に耳を傾けた。有難う、牧川さん。四〇分があっという間に終り、最後に会員総立ちで～兎追いしかの山～と「故郷」を大合唱で締めくくり懇親会へと移った。

懇親会に先立ち、行田市議会議長大河原梅夫様、埼玉県議会議員鈴木聖二様、人事院総裁江利川毅様よりお祝辞を頂いた。

大好評！しなやかで開きやすい法令集
ポケット六法
収録法令一八四件　平成23年版　定価一八九〇円（税込）
［編集代表］江頭憲治郎　小早川光郎　西田典之　高橋宏志　能見善久

租税法・民事再生法に判例付加／労働法を第2巻へ
有斐閣判例六法 Professional
平成23年版　定価五四六〇円（税込）
［編集代表］江頭憲治郎　小早川光郎　西田典之　高橋宏志　井上正仁　能見善久

総合事項索引を一新！判例と合わせて学習に最適の一冊
有斐閣判例六法
平成23年版　定価二七三〇円（税込）
［編集代表］井上正仁

代表取締役社長　江草貞治
株式会社有斐閣
since1877
東京都千代田区神田神保町2-17
代表 03-3264-1312　FAX03-3264-5030

忍郷友会（10/15〆）

「法人関連三法への対応について」

会長　松平忠昌

ご高承の通り、法人に対する法律が改正となり、平成二十五年十一月三十日迄に新法対応の申請書を提出することが求められております。

平成二十二年六月開催の評議員会において、新法対応の検討につき議決を受けておりますので、その日程に基づき準備を進めておりますので、現況につき以下の通りご報告します。

1、定款時

(1)当会は、明治三十八年（一九〇五年）の発足以来「寄附行為」（新法でいう定款）に基づき会の運営・活動を続けて参りました。

しかし、新法下では、この「寄付行為」を改正民法に基づく「定款」に改訂する必要があります。

(2)定款の原案は、平成二十二年八月に草稿済みであり、理事会への提案を行い、九月から検討に入っております（年内に案を纏める予定）。

(3)平成二十三年一月度の評議員会において「移行内容」についての議決を得られた後に、同年六月度の評議員会に諮ることにしています。

2．移行内容時公益財団法人としての移行を検討しており、この為の以下の要件を詰めています時

東京支部（事務所）の設定。

申請する行政官庁の選択（文部科学省とすることを内定していますが、認可条件に合致しない場合は、埼玉県教育委員会になるもの）。

公益法人格を取得する為の条件確認（定款を含めた移行内容につき上記評議員会の議決取得後に折衝を開始の予定）。

定款の策定（上記1の通り）。

3．日程時

(1)平成二十三年一月時　評議員会に「移行内容」を諮る（会員の総意を得る為に上記内容に加え、資料を準備する予定）

(2)平成二十三年　六月時　評議員会に「定款」を諮る。

(3)平成二十三年　十月時　所管行政官庁への申請を予定。

プライミクス株式会社
PRIMIX
会長　古市實
社長　古市尚
本社〒553-0001 大阪市福島区海老江八丁目十六番四十三号
電話（〇六）六四五八－七五三〇
FAX（〇六）六四五八－七八五〇
東京支社〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目十六－四
埼玉支社〒350-0833 川越市芳野台二丁目八－四〇
工場　淀川・武庫川・埼玉・上海
http://www.primix.jp

小山商事株式会社
会長　小山博
社長　小山喜一郎
本社　行田市埼玉三三五一
TEL〇四八―五五九―四一二(代)
リカリッシュ旭町店
TEL〇四八―五五六―三七一一
リカリッシュ大井店（熊谷）
TEL〇四八―五五九―四七一一
宝くじ売場持田店
TEL〇四八―五五三―四七一一

財団法人 忍郷友会とは・・・

創立

明治四年（一八七一年）の廃藩置県で東京を初め全国に散った旧忍藩士の人達八十名が、明治三十八年（一九〇五年）十月二十二日東京向島百花園に集まり、郷友親睦の会として発会式が行われたのが本会の始まりであります。

同年十二月六日には、旧藩主嗣子松平忠壽少尉の日露戦争凱旋祝賀会が盛大に開催されて、本会の基礎が固まり、会報第一号が刊行されました。

その会報には、「旧藩士族ノミニ」とどまらず「士農工商ノ別ナク婦人女子ヲ併セテ」会員とする旨の記載もあり、士族のほか忍に所縁の一般の人達も参加して、交流を深めることとなり、会員相互の親睦、個人の知徳の涵養を目指しながら、最初は東京に遊学する忍町の学生を援助する等、後継者の育成と郷土の文化発展にも意を尽くして年月を重ねてきています。

財団法人の認可

昭和十年の創立三十周年大会以後は、それまでの幹事制から会長制に替わり、林頼三郎法学博士を会長に、松平忠壽貴族院議員を名誉会長に選び、その後昭和昭和十三年に文部省（現文部科学省）より、「教育活動を行う財団法人」として認可を受け、今日至っています。

全国的に見ても郷友会という名前の組織は各地にありますが、法人格を有しているものは、今もほとんどないと聞いており、ユニークな会と云えます。

現在の会長は、（奥平）松平忍家十六代の松平忠昌氏です。

会員

本会は明治、大正、昭和、平成の大きな歴史的な試練にもめげずに活動を続けており、創立百周年を超えるに至っています。会員の延べ人数は数千人を数えるになり、その方々の活躍の場は、政界、官界、法曹界、経済界、学界、美術芸能、（戦前の）軍部など多岐に亘っています。創立後一世紀、忍郷人として誇り高く生きてきた郷土を愛する人々の集まりです。

何処にいても、いつも行田のことが忘れられない人々の集まり、それが「忍郷友会」で、現在の会員数は二百三十余名です。

目的と事業

今も尚、先人の遺志を受け継ぎ、行田地方を中心に東京、川越など国内県内外の会員有志に支えられて、従来からの会員相互の親睦、知徳の涵養と人格の向上を図りながら、併せてこれからの地域社会や国家に役立つリーダー後継者の人材育成を目的に、社会教育事業と学校教育の支援事業を行っています。本会の目指す究極の人間像は「確かな知識を持ち、郷土を愛する高い倫理観と品格を備えた人」です。

平成二十一年度 事業報告

1、会議

(1) 総会

① 定時総会開催

（会務報告、講演会・懇親会）

日　時　平成二十一年六月二十八日(日)
参加者八十四名
午後二時～八時

会　場　行田市・ベルヴィアイトピア

来賓

衆議院議員　小島　敏男　様
行田市議会副議長　大河原梅夫　様
行田市教育委員会教育長　丸山　綱男　様
行田商工会議所名誉会頭　清水　孝男　様
行田商工会議所副会頭　小川　雅以　様
行田ロータリークラブ会長　小林　一好　様
行田ライオンズクラブ会長　中川　邦明　様
行田青年会議所理事長　小池　邦彦　様
忍藩主阿部家二十二代当主　阿部　正靖　様

松平忠昌議長より平成二十年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演
～棋士の思考法からひも解く「直感力」～
講師　矢内　理絵子　様
女流プロ棋士

懇親会・アトラクション
「原正夫とラテンジャズ」

② 定時総会開催

（会務報告・賀正会）

日　時　平成二十二年二月二十日(土)
参加者五十六名
会　場　霞会館(霞ヶ関ビル三十四階)

来賓

行田市総務部長（市長代理）　棚沢　恵　様
生涯学習部ひとつくり支援課長（教育長代理）　風間　祥一　様
行田商工会議所会頭　鈴木　秀憲　様
行田市商工会議所副会頭　小川　雅以　様
ものつくり大学学長　神本　武征　様
旧忍藩主阿部家二十二代当主　阿部　正靖　様
行田青年会議所副理事長（理事長代理）　丸山　靖雄　様

松平忠昌議長より平成二十二年度の事業計画および予算について報告があった

懇親会・アトラクション
ポップス演奏「ダンディキャッツ」

(2) 評議員会・理事会

① 理事・監事合同準備会

日　時　平成二十一年四月二十七日(月)
午後三時～五時三十分

会　場　行田本部事務所　会議室

審議事項
1　平成二十年度事業報告書(案)について審議
2　平成二十年度決算報告書(案)について審議
3　平成二十年度の事業・決算に係わる監査
4　平成二十一年六月二十八日(日)総会開催について
5　その他

定時総会日に開催される理事会・評議員会に提案する審議事項並びに総会報告事項の決定、総会の運営進行等について打ち合わせ

②評議員会、理事会

日　時　平成二十一年六月二十八日㈰
　　午後二時～三時二〇分
会　場　ベルヴィアイトピア
審議事項
　1　平成二十年度の事業報告がなされ審議・承認
　2　平成二十年度の決算報告がなされ審議・承認
　3　平成二十年度の事業に係わる監査について報告され承認
　4　その他

③理事・監事合同準備会

日　時　平成二十一年十二月十五日㈫
　　午後三時～五時三十分
会　場　行田市・本部事務所
審議事項
　1平成二十二年度事業計画（案）について
　A「進脩塾」事業計画案について審議
　B「浮城のまち行田少年の主張大会」事業計画案について審議
　C「三端懇話会」事業計画案について審議
　D「読書推進実行委員会」事業計画案について審議
　2平成二十二年度予算（案）について審議
　3平成二十二年二月の理事会・評議員会、総会・賀正会の日程について小山博事務局長より平成二十二年二月二十日㈯に開催したいとの提案があり審議
　4その他

④理事会、評議員会

日　時　平成二十二年二月二十日㈯
　　午後三時～三時五〇分
会　場　霞会館（霞ヶ関ビル三十四階）
審議事項
　1平成二十二年度事業計画（案）について審議・承認
　2平成二十二年度収支予算（案）について審議・承認
　3平成二十二年六月の定時総会の日程について
　4公益法人について
　5その他

2、教育奨励事業

①「第二十四回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰

目的　次代を担う青少年の健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催する「浮き城のまち行田少年の主張大会」を後援・支援する。
日　時　平成二十一年七月二十五日㈯
会　場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
発表者　市内小・中学校児童・生徒、父兄等二五〇名参加
　本会、松平 忠昌 会長より記念品を贈呈した。
　二十二年二月二十日霞会館で開催された賀正会に代表者四名を招待した。

②第九回「三端懇話会」

目的　行田市に縁故を有する青少年を、国又は地域社会に貢献する人材に育成するため、国を代表するような一流人物と懇談会食する機会を与え、啓発発憤の場とすることを目的に開催されている。
日　時　平成二十一年八月二十四日㈪
会　場　霞会館（霞ヶ関ビル三十四階）
講　師　天野 亨 先生
聴講者　行田市内の中・高校生二十名参加
　本会から、松平会長、田代、山本、矢澤各理事、木暮、福島、遠藤各評議員が出席された。

③第八回読書推進運動

目的　読書は子供の成長の糧である。本を読むことの動機づけは本に親しむことからである。大人が読み聞かせることにより子供達は本に親しむようになる。その読み手の技能と優しい心を大きく育てる事業を読書推進活動として行っている。
読み聞かせボランティア
スキルアップ講座と交流会
～読み聞かせからお話へ～
日　時　平成二十二年二月十四日㈰
　午後一時三十分～四時
場　所　行田市教育文化センター「みらい」第一学習室
講　師　小関知子先生（東京子供図書館理事・日本図書協会理事・元三鷹図書館長）
受講者　五十八名

読書先進地の視察
日　時　平成二十一年十一月六日㈮
場　所　長野県茅野市
内　容　茅野市の市民と行政が一体で行う読書推進の研修
参加者　大野委員長、渡辺、小山、倉持、遠藤、鈴木各委員、遠藤事務局員

④進脩塾活動
目的　私たちが戦後失ってしまった日本人の美質・義・敬・恥・信とか正直・勤勉・親切・謙虚・素直・感謝といったものを経書を学ぶことによって取り戻し、精神文化の興隆に寄与することを目的に運営されている。

公開講座
行田市市制施行六十周年記念
～郷土の偉人を知る事業～
第6回「行田市漢字文化講演会」と「素読教室発表会」
日　時　平成二十一年八月二十二日㈯
午後一時三〇分～四時
会　場　行田市産業文化会館ホール
講　師　村山　吉廣　先生
「忍藩藩儒芳川波山の生涯と詩業」
受講者　三〇〇名

定例講座
四　月「孟子」荒井　桂先生
五　月「孟子」荒井　桂先生
八　月「行田市漢字文化講演会」村山吉廣先生
九　月「孟子」荒井　桂先生
十　月「孟子」荒井　桂先生
十一月「孟子」荒井　桂先生
二　月「孟子」荒井　桂先生
二　月「孟子」荒井　桂先生
三　月「孟子」荒井　桂先生
※行田ケーブルテレビにて放映
（内容）進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

素読教室の開催
日　時　毎月第一、第二、第三土曜日
午前九時三十分～十一時三〇分
場　所　行田市郷土博物館講座室
対　象　行田市内低学年児童（四歳～八歳迄）二十三名
講　師　田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生
論語・漢詩・孝経・俳句の学習

⑤書籍発行事業「芳川波山の生涯と詩業」
著　者　村山吉廣
出　版　明徳出版社
発行部数　一〇〇〇冊

3、運営会議開催

第一回
日　時　平成二十一年六月九日㈫
午後六時～八時
場　所　本部会議室
議　題　1　総会出席状況について
2　会員増強について
3　事業推進について

第二回
日　時　平成二十一年七月三十一日㈮
午後六時～八時
場　所　本部会議室
議　題　1　会員増強状況について
2　生涯学習フェァについて
3　向島百花園にて懇親会の件

第三回
日　時　平成二十一年十月二十六日㈪
午後六時～八時
場　所　本部会議室
議　題　1　二十三年度以降の事業と予算について
2　その他

4、慶　弔

5、会員増強対策

法人名：**財団法人　忍郷友会**　事業名：**事業全体**

自 平成 21 年 4 月 1 日
至 平成 22 年 3 月 31 日　決算

収支計算書

（単位：円）

科　目	予算額	決算額	差　異
Ⅰ　収入の部			
基本財産運用収入	180,000	209,012	29,012
会費収入	1,600,000	1,705,000	105,000
特別会員会費収入	0	0	0
総会費収入	900,000	1,062,000	162,000
進脩塾運営会費収入	1,120,000	1,297,302	177,302
寄付金収入	30,000	30,000	0
雑収入	200,000	1,271,161	1,071,161
積立基金取崩収入	1,230,000	1,230,000	0
当期収入合計（A）	5,260,000	6,804,475	1,544,475
前期繰越収支差額	5,180,000	5,582,936	402,936
収入合計（B）	10,440,000	12,387,411	1,947,411
Ⅱ　支出の部			
事業費	3,212,000	3,704,849	492,849
その他事業費	150,000	150,000	0
慶弔費	100,000	0	-100,000
一般管理費	580,000	1,327,628	747,628
会合費	200,000	118,770	-81,230
事務所賃借費	480,000	430,706	-49,294
事務職員給与	600,000	600,000	0
租税公課	0	0	0
積立基金取崩支出	0	1,230,000	1,230,000
予備費	88,000	0	-88,000
当期支出合計（C）	5,410,000	7,561,953	2,151,953
当期収支差額	-150,000	-757,478	-607,478
次期越収支差額	5,030,000	4,825,458	-204,542

支出の部の内訳書

（単位：円）

科　目	予算額	決算額	差　異
事業費			
（総会費用）	1,300,000	1,453,835	-153,835
（会報発行費）	250,000	298,900	-48,900
（進脩塾）	970,000	1,297,302	-327,302
（少年の主張支援）	242,000	204,812	37,188
（三端懇話会支援）	400,000	400,000	0
（読書推進支援）	50,000	50,000	0
小　計	3,212,000	3,704,849	-492,849
その他事業費	150,000	150,000	0
慶弔費	100,000	0	100,000
一般管理費			
（通信運搬費）	300,000	225,838	74,162
（事務用品費）	200,000	130,633	69,367
（交通費）	20,000	8,910	11,090
（送金手数料）	30,000	25,960	4,040
（雑費）	30,000	936,287	-906,287
小　計	580,000	1,327,628	-747,628
会合費	200,000	118,770	81,230
事務所賃借費	480,000	430,706	49,294
業務職員給与	600,000	600,000	0
租税公課	0	0	0
積立基金取崩支出	0	0	0
予備費	88,000	0	88,000
合　計	5,410,000	6,331,953	-921,953

財産目録

（単位：円）

科　目	金　額
Ⅰ　資産の部	
現金預金	
現金　現金手許有高	12,269
預貯金	
普通預金　埼玉りそな銀行 行田支店　4187540	1,129,149
普通預金　埼玉りそな銀行 行田支店　4085314	2,586,796
郵便貯金　郵便貯金　(00120-2-48444)	1,097,244
流動資産合計	4,825,458
積立基金　有価証券　(取得価格)	1,327,965
その他固定資産合計	1,327,965
固定資産合計	1,327,965
資産合計	6,153,423
Ⅱ　負債の部	
負債合計	0
Ⅲ　正味財産の部	
正味財産	6,153,423

有価証券の金額は取得金額である。
内訳　東京電力株式　1,983株　(内登録株19株)
東京瓦斯株式　11,254株

貸借対照表

（単位：円）

科　目	金　額
Ⅰ　資産の部	
現金	12,269
普通預金	3,715,945
郵便貯金	1,097,244
流動性預金合計	4,813,189
預金合計	4,813,189
現金預金合計	4,825,458
流動資産合計	4,825,458
積立基金	1,327,965
その他固定資産合計	1,327,965
固定資産合計	1,327,965
資産合計	6,153,423
Ⅱ　負債の部	
負債合計	0
Ⅲ　正味財産の部	
正味財産	6,153,423
負債及び正味財産合計	6,153,423

平成二十二年度㈶忍郷友会役員名簿

理事

会長	松平忠昌
副会長兼東京支部長	江草忠敬
副会長	渡辺栄一
事務局長	小山博
川越支部長	加治久明
理事	新井友一
理事	碓井勝也
理事	大野年司
理事	黒渕陽夫
理事	清水龍男
理事	清水義夫
理事	鈴木秀憲
理事	田代敬二
理事	中川邦明
理事	古市實
理事	堀岩夫
理事	宮川公男
理事	矢澤大和
理事	山本憲作

監事

監事	岩崎安裕
監事	榎本晃三
監事	大澤誠
監事	加藤力也
監事	保泉欣嗣

名誉理事

名誉理事	佐藤孝太郎
名誉理事	清水孝男

顧問

顧問	柳原承光

特別会員

特別会員	阿部正靖
特別会員	安藤敬一
特別会員	坂巻敏夫

評議員

評議員	青柳憲助
評議員	新井啓介
評議員	飯田芳幸
評議員	飯塚利男
評議員	市川芳正
評議員	井上啓子
評議員	五十幡和彦
評議員	永島健雄
評議員	江草祥子
評議員	江原史郎
評議員	江利川毅
評議員	遠藤初枝
評議員	大谷純一
評議員	岡安徳一
評議員	小川雅以
評議員	奥貫健一
評議員	小澤誠邦
評議員	川辺秀夫
評議員	木嶋清
評議員	木村義
評議員	木元紘一
評議員	倉持成一郎
評議員	木暮照子
評議員	小菅克祥
評議員	斎藤準一
評議員	鈴木貞二郎
評議員	瀬山文孝
評議員	戸ヶ崎直司
評議員	戸塚義男
評議員	長島康雄
評議員	西澤脩
評議員	根岸仁司
評議員	橋本恭一
評議員	長谷川雅敏
評議員	細井保雄
評議員	松平由美子
評議員	松本皓一
評議員	松本尚
評議員	松岡由浩
評議員	水谷剛蔵
評議員	武笠勇
評議員	藤倉浩
評議員	村賀英介
評議員	諸貫健一
評議員	八木原保
評議員	山田晃
評議員	横川福治
評議員	横田保良
評議員	吉川正就
評議員	渡辺久記
評議員	綿貫守男
評議員	㈳行田青年会議所

幹事

幹事長	中川邦明
副幹事長	大澤誠
幹事	渡辺久記
幹事	坂田幸彦
幹事	長谷川雅敏
幹事	五十幡和彦
幹事	飯島千裕
幹事	小沢健一
幹事	川島亨
幹事	新井誠
幹事	瀬山文孝
幹事	長島豊
幹事	松岡由浩
幹事	鈴木淳一
幹事	内田善康
幹事	長谷川幸司

快適ガスライフ
サイカン工業株式会社

快適な環境づくりをめざして
(株)清水アーネット

第二十五回　浮き城のまち行田「少年の主張大会」

理事　清水龍男

平成二十二年十一月十四日㈰十三時十五分より行田市教育文化センター「みらい」ホールにて、第二十五回浮き城のまち行田「少年の主張大会」が開催されました。

この大会は市内の小・中学校の代表者が日常生活を通して考えていることを市民に発表するもので、青少年健全育成を図るために、行田市教育委員会・青少年育成行田市民会議が主催し、㈶忍郷友会が後援となり毎年開催されているもので、昭和六十一年度の初回から今年まで二十五回目になります。発表者は小学校六年生二十名と中学二年・三年から八名の二十八名の生徒でテーマは自然・家庭・地域社会・環境・平和・将来の夢など力強く発表していただきました。特に本年は「環境問題・思いやりの心」をテーマに発表される生徒が多かったと感じました。

来賓挨拶の中で当財団の松平会長からは「二十五回という節目の年に参加できるめぐりあわせや、家族・周りの方々に感謝をしてほしい。そしてこれからは何を出来るかではなく、何をしていくかを心がけてほしい。また「志」・「学ぶ」・「愛」という三つの言葉を贈り、日本人としてのプライドを大事にしてください。日々の努力の結果が認められることは自分への勲章である。そして郷土愛の重要性・歴史の価値を話され立派な日本人としてチャレンジしてほしい」と結ばれました。

審査終了後、主催者代表より表彰状を、松平会長より発表者全員に「広辞苑」が贈呈されました。優秀者は次回賀正会にて発表していただきますのでどうぞお楽しみにしてください。

当会からは松平会長・田代理事・矢沢理事・木暮評議員の参加をいただきました。

来年は多くの会員の参加をいただき是非、子供達の生の発表をお聞き下さい。

忍郷友会会長賞作品二作品を紹介します

忍郷友会長賞　小学校の部

農業の未来・日本の未来

行田市立太田東小学校六年　藤間大輝

みなさんの将来の夢はなんですか。ぼくの夢は、農家になることです。ぼくの家は、昔から代々農業をやってきました。だからぼくも大きくなったら家の仕事をつぎたいのです。

でもぼくは農業のことを何も知りません。おじいちゃんやおばあちゃんの仕事見たり手伝ったりしたことは何度もありますが、農業についてきちんと勉強したことはありません。そこで先日、インターネットを使って農業のことをいろいろと調べてみました。

日本の農業人口は、毎年約十数万人づつ減少しています。平成二十年の段階で約二百九十八万人です。しかもそのうち約半分の百四十万人近くが七十歳以上の高れい者です。農

業の未来を支える三十九歳以下は約三十五万人しかいません。このことを知ってぼくはますます農業をやりたいという気持ちが高まりました。

食料自給率の低下も大きな問題です。二〇〇六年の調査では、日本の食料自給率は三九パーセントで、主要先進国の中で最低でした。ぼくの家は農家なので、お米は買いません。野菜もほとんど自分の家で作っています。だから食料自給率が半分もいかないというのは信じられないし、何かおかしいと思います。

また、後継者不足などの理由による放き地の増加もあります。さらに農業人口の長期減少も起きています。

ぼくは、なぜこういう問題が起こるのか、とても疑問に思いました。そこで今も元気に農業をがんばっているおばあちゃんに聞いてみると、「若い人は、会社で働かなくちゃ生活していけないんだよ。農業じゃ生活できないんだよ。」と教えてくれました。ぼくはもう一つおばあちゃんに聞いてみました。

「だったら、定年で会社を辞めた人がやればいいのに」。おばあちゃんは、こう答えてくれました。

「農業は、体が丈夫で、健康でなくちゃできないんだよ。それに農機具は高いでしょ」。ぼくはすべて納得しました。

そのほかにも、日本人の米離れ、輸入農作物の増加など、日本農業の衰退が止まりません。

みなさん、日本の農業はこのままでいいのでしょうか。農業の未来、日本の未来のために、ぼくは夢に向かってこれからもがんばっていきたいと思っています。

忍郷友会長賞　中学校の部

「江戸しぐさ」を広めよう

埼玉中学校三年　鈴木啓一郎

あなたは、「江戸しぐさ」という言葉を知っていますか。例えば電車で、席が少し開いていたとします。ちょっと座りづらいなあと思ったら、隣の人が少しずれてくれました。そのおかげで気持ち良く座ることができました。これが「腰浮かせ」という江戸しぐさなのです。このように、江戸しぐさというのは、相手の気持ちを思いやるさりげない動作のことを言います。

自分も混んでいるバスの中で「うかつ誤り」という江戸しぐさを経験したことがあります。小学生のときのこと、バスが揺れ、隣の人の足を踏んでしまいました。とっさに「すみません」。と言おうとしたら、隣の人が先に「すみません」。と言ってくれたのです。そうしたら、自分の気持ちが楽になり、気持ちよく「こ

ちらこそすみません」と言えました。もし、相手の気持ちを思いやれない人の足踏んでしまったら、大変なことになっていたかも知れません。

じつは、江戸しぐさを始めてしったのは、小学校の二年生。剣道を始めたころのことです。剣道では「人の前を通ってはいけない」という礼儀作法があります。初めての試合の時のことです。うっかり先生の前を通ってしまったのです。すぐさま先生に呼びとめられて「人の前を通ってはいけないんだよ。もし、どうしても前を通らなければならない時は、少し手を前に出して「すみません」と言いながら通るんだよ」と言われました。これは「横切りしぐさ」という江戸しぐさだったのです。剣道だけでなく普段でも、人の前を通ることは礼儀に反します。

何かを見ているとき、前を通られたら嫌ですよね。しかし、江戸しぐさ一つで嫌な行動も気持ち良く許されるのです。江戸しぐさとは、相手の心を動かせる日本の美しい文化なのです。相手を尊重・理解することによって相手の心も自分の心も豊かになります。先人の心ある知恵を生かして、心豊かに暮らせる江戸しぐさを現代にも広めていきたいものです。

しかし「そんなのメンドウクサイ、古臭いし、やってられるかよ」。と思う人もいるでしょう。また、使おうと思っている人の中にも、「タイミングがずれたら恥ずかしいじゃないか」。と躊躇する人もいると思います。「何を言っているのですか」私たち中学生だって、あと五年もすれば、大人の仲間入りをするんですよ。大の大人が相手に思いやりを示せないでどうするのですか。思いやりは目には見えませんが、江戸しぐさはさりげない動作として身につけることができるのです。

そして、さりげない動作で目に見えない思いやりを目に見える形で相手に示すことができるのです。だから、江戸しぐさを身につけた人はスナートに振る舞い、相手を思うと同時に相手に好印象をもたれることになるのです。どうですか。少し江戸しぐさをしてみようじゃないか。と考え始めたのではないでしょうか。

何事も、最初はぎごちないと思いますが、まずはひとつ、やってみてください。江戸しぐさは誰もが心を持って行えば、相手の心を動かし、自分の心が豊かになるちょっとした「魔法」です。それも、苦しい修行といわれる物を何年も積む必要なんかないのです。その気さえあれば誰にでも身につけられる魔法なのです。

私たち日本人の祖先が長い間身につけてきた思いやりを表わすための、そして、人間関係を円滑にするための魔法「江戸しぐさ」日本の宝である江戸しぐさを大切に受け継いでいきたいです。と同時に、古さだけではなく、現代人も動かす魔法としてたくさんの人に使ってほしいものです。

みんながこの魔法を使いこなせる世の中になれば、世界中の争いなんかなくなるのではないかとさえ思ってしまいます。

さあ、みなさんも今から、「江戸しぐさ」を身に付け、スマートにカッコよく相手を思いやる心を広めていきましょう。

堂上会
理事　柳原承光
（旧　松平忠顕）
〒100-6034
東京都千代田区霞が関三丁目二番五号
霞が関ビル三十四階　霞会館内
電話〇三（三五八一）九一五一番(代)
〒100-0032
東京都港区六本木六丁目十六番五十号
電話〇三（三四〇八）五八七六番

蔭山法律事務所
弁護士
蔭山好信
〒361-0073
埼玉県行田市行田一二番一二号
TEL〇四八―五五四―〇〇〇三
FAX〇四八―五六四―六六〇〇
E-mail:kageyama@smile.ocn.ne.jp

第十回　三端懇話会

鈴木スイ子

第十回目を迎えた節目の年の三端懇話会に初めて参加させていただきました。異常気象の猛暑の中、午後一時、行田商工会議所前をバスにて出発しました。行田市内の八つの中学校から十六名、進修館高校から四名、忍郷友会から山本憲作委員長を始め十二名。忍郷友会会長・松平忠昌氏は現地で合流しました。

バスの中では自己紹介を行い、生徒さんたちには今後目指したいもの等をお聞きしました。音楽やお笑い等の芸能関係、教師、弁護士等、まだ無いという生徒さんもいました。その後、本日の講師の小野田寛郎氏のＤＶＤの上映。木暮様より今日のフランス料理マナーについてのお話し等がありました。

霞ヶ関会館到着後、三十四階の控え室より国会議事堂、総理官邸等を俯瞰し、小野田ご夫妻と皆さんで記念撮影をしました。

隣室にて山本委員長の司会進行により、まず松平会長よりご挨拶があり、引き続き講師の小野田寛郎氏の「極限に生きる」をテーマに講演が行われました。

講師　小野田　寛郎 氏

小野田氏は一九二二年和歌山県生まれの今年で八十八歳、小柄ながら背筋をしゃんと伸ばし、立ったままの姿勢で一時間強お話をして下さいました。昭和四十九年日本へ帰国する間での三十年、戦争の終結後も任務解除命令が届かなかった為ヒィリピンのルバング島で戦い続けた。最初は三人での生活から九年後に一人死亡、二十七年後にはもう一人死亡して一人になったそうです。

日々の暮らしは野生の牛や椰子の実、バナナ等をいろいろに工夫して食料とした。被服は継ぎをし、木の皮を加工し、時には村の人の着替えを失敬するなどしたそうです。ある時、針を作るため針金や、ナイフのスプリング等自分たちの身の回りにあるものを利用し作るという、常に智恵を絞り創意工夫をする生活を重ねていたそうです。

しかし、火が使えないため、雨に濡れた洋服を着たまま乾かすという環境状況の暮らしの辛さは並大抵ではなかったそうです。一人では生きていられなかっただろうとも。原住民の人が周りにいたことはいろいろの意味で助かった事もあったそうです。病気は治癒力に頼ったとのこと。命を掛けなければならぬ時に潜在意識が働いた事もあったそうそうです。

小野田さんの言葉を要約すると。

目的を持って生きること。（夢、希望に向かって努力する。何度でも創意工夫して進む）

自分が何に向いているのか早い時期に知る。

生きる必要があれば人間は力が出る。健康でなければ自分の意志は継続できない（毎朝自分の健康状態を知る）

一人で歩きなさい。自立しなさい。良き友、良き仲間の必要。（協調性を持つ）

社会に役立つ人間になりなさい。

極限に生きてきた人の言葉には力があり、学生の皆様にも今後の人生にプラスになること間違いないと思いました。

現在は、ブラジルで小野田牧場を経営し、肉牛壱千五、六百頭を飼育する他、日本においてサバイバル塾「小野田自然塾」を主宰し、忙しい日々を過ごされているとの事です。

貴重な講演後は、四テーブルにてフランス料理のフルコースを頂きながら楽しい会談がなされました。

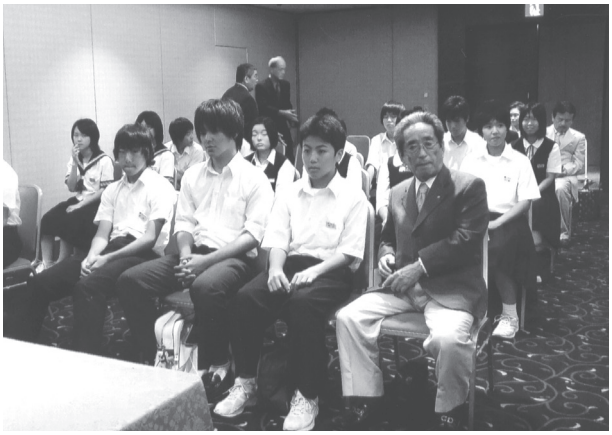
当日のメニューは①マグロとアヴォカドのタルタル仕立て②ジャガイモのクリームスープ③スズキのソティープロバンス風④牛ヒレ肉のステーキマスタードソース⑤季節のサラダ⑥デザート（イチゴケーキ）⑦コーヒー

楽しく有意義な時間はあっという間に過ぎ、霞ヶ関ビル出発時間の予定をオーバーしていました。松平会長にお見送りして頂き、行田に無事着くことが出来ました。有難うございました。

三端懇話会に参加して

見沼中学校三年　竹内健悟

今回三端懇話会に参加してとても貴重な体験をさせて頂きました。第一部の小野田寛郎さんの講演では、小野田さんが第二次世界大戦のときに体験したことなどを話して頂きました。戦争を知らない僕たちにとっては、とても信じがたいことばかりでした。三十年間適地で戦い続けたことや、極限で生き抜くためにしてきた色々なことが実際にあったことなのか信じられませんでした。話の中で特に心に残ったのは、一人とはいかに弱いか、ということです。適地で小野田さんが病気になってしまったときも、「一人きりで他の人がいなかったら回復できなかった」と言っていました。そんな話を聞いて僕は周りの人の大切さを改めて感じました。



第二部の会食では、テーブルマナーについて色々教えて頂きました。普段家などで食事をしているときはあまり考えたことはありませんでしたが、椅子の座り方からナプキンの使い方まで始めて知ることばかりでした。少し緊張しながらも、とてもおいしく頂きました。

今回の三端懇話会では新たな友達もでき、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。また、貴重な話を聞かせて頂いたことを忘れずに、困難に突き当たっても、小野田さんの話を思い出し、これからの生活をもっと充実したものにしていきたいです。

進脩塾活動について

進脩塾主幹　田代敬二

①定例講座「孟子」

進脩塾の開講は平成二年の十二月でしたから、本年をもって丸二十周年を迎えることになります。この間、「大学」「中庸」「論語」を学ぶことで修己治人の道を知り、人として本来あるべき道を踏み行うことの重要性を再認識しました。

今「孟子」を受講中ですが、副読本として吉田松陰の「講孟箚記」を併用して勉学中です。松蔭は、「時に遇うも遇わぬも、皆天に任せて顧みず。我に在りては道を明らかにし義を正しうし、言うべきを言ひ為すべきを為すのみ」と。の孟子のことばに拠り、それを越えて幕末日本の明日を切り開かんとして行動した、気概の書がこの講孟箚記です。

迷走ただならぬ今日の政局を見るにつけ万人に学んで欲しい講座であると思います。一人でも多くの来講をお待ちしております。

会　場　行田市商工センター四〇三会議室　毎月第四土曜日　午後六時から

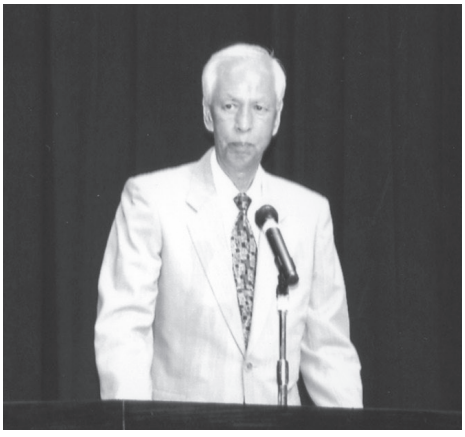
講　師　荒井桂先生（元埼玉県教育長）

②素読教室「論語」「漢詩」

会場を行田市郷土博物館（忍城御三階櫓）講座室とし、毎月第一、第二、第三土曜日の午前九時三〇分～十一時三〇分まで、初級組八名、中級組十名、上級組八名の合計二十六名が論語、漢詩の素読に励んでいます。

素読は、名詩、名文をひたすら音読を繰り返すことで、日本語の本来のリズムを絶えず耳にし、口にし、自然のうちに美しい日本語を身につけることができます。会員のご子弟の入講を歓迎いたしております。

③漢字文化講演会（市民公開講座）



日　時　平成二十二年八月二十八日㈯　午後一時三十分～四時

場　所　行田市商工センターホール

講　師　村山吉廣氏（早稲田大学名誉教授）

演　題　「進脩館を支えた教授陣とはばたいた俊秀たち」

講演に先立って素読教室の児童二十余名による素読発表会が行われ、多くの聴衆から感動の拍手を頂戴しました。

村山先生の講演は、芳川波山はじめ八名の進脩館の教授陣並びに教育を受けてはばたいた六名の俊秀の顕彰がパワーポイントを駆使して行われ、盛況裡終了することが出来た。

④ ケーブルテレビ放映

行田ケーブルテレビにて、毎月の定例講座、公開講座（漢字文化講演会及び素読教室発表会）の模様を放映しております。

※毎月三回の素読教室は左記五名を以って運営しております。紙上を借りて感謝の意を表します。

主幹　田代　敬二
指導員　奥田　七寿
川田　隆生
荻野谷麗子
遠藤　初枝

進脩塾会費

鈴木　秀憲（一〇〇、〇〇〇円）
清水　孝男（五〇、〇〇〇円）　田代　敬二（三〇、〇〇〇円）
鈴木貞二郎　小山　博
横川　福治　小沢　誠邦（二〇、〇〇〇円）
木村　義　川辺　秀夫
木嶋　清（一〇、〇〇〇円）
山本　憲作　中川　邦明
渡辺　邦道　野村　昭
矢澤　大和　奥田　七寿
遠藤　初枝

※一部入金予定者を含む

診療所の温かさをもちながら、レベルの高い医療・介護の提供を！
医療法人 葦の会
電話（代）048-555-3519　URL http://www.ashinokai.net/
整形外科
リハビリテーション科
石井クリニック
ショートステイ
「笑顔いっぱい」
デイケア
「元気いっぱい」
「笑顔いっぱい」
居宅介護支援事業所
「ステップアップ」
訪問リハビリテーション

社会福祉施設
教育・文化施設
オフィス・工場
店舗・商業施設
耐震補強
建物リニューアル
技術と環境の未来を見つめて
小川工業株式会社
埼玉県行田市桜町1-5-16　TEL.048-554-4111

読書推進運動について

読書推進委員長　大野年司

「読み聞かせからお話へ」
～読書で親子の絆を高めましょう～

第八回目となりました読み聞かせボランティアの皆様向けの講座を平成二十二年二月十四日㈰に開催致しました。

講師に東京こども図書館理事、日本図書館協会理事で、読書推進活動をいろいろな形で展開されている小関知子(こせきともこ)先生をお招きして「読み聞かせからお話へ」と題しご講演頂き、研修会を行いました。

これまでの忍郷友会読書推進運動の甲斐があり、定員一杯の盛況となりました。講演後の意見交換会でも、今迄になかった切口での内容であったと、参加者から昨年に続いて大変高い評価を得る事が出来ました。

講師　小関知子先生

～読み聞かせグループと意見交換会～

又、市内の読み聞かせグループ「おはなしタンバリン」の皆様と意見交換会を四月に行い、忍郷友会の読書推進活動に対するご意見を直接お聞きする事が出来ました。結論的には、忍郷友会の読み聞かせの講習は、経験者（ベテラン）向けで、行田市図書館の研修と上手く住み分けが出来ていて、とても参考になるので「今後も是非」という大きな期待がある事がわかりました。

第九回　読書推進学習会
読み聞かせボランティアスキルアップ講座開催予定

「わらべうたと読み聞かせ」
～子どもの心に灯をともすわらべうた～

今年は「わらべうたと読み聞かせ」の切口で「子どもの心に灯をともすわらべうた」と題し、講師に落合美知子先生をお招きして、研修会を平成二十三年二月二十七日㈰に開催する予定です。行田市図書館様とも連携をとりながら、効率良く、そして楽しく進めてまいる所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

江草基金に育まれて
～三端懇話会十回無事完了～

事務局長　小山　博

平成十三年から始まった「三端懇話会」が、当初の計画通り本年第十回をもって完了しました。「読書推進事業」は引き続き行われます。資金を提供して頂いた江草家、並びに江草家経営の㈱有斐閣の皆様に改めて心から謝意を表わします。

『江草基金』とは

昭和六十年の賀正会の席上、現副会長（前事務局長）の江草忠敬氏の御父君江草四郎氏より、「今日予算を拝見したが、こんな予算では何も仕事が出来ない。よって行田からノーベル賞が貰えるような人材を育てて欲しい」と壱千万円の寄附を申し出られ、会場が感動の渦となりました。この江草基金の有効活用をめぐって当時の市川良一事務局長が中心となり、検討を重ねましたが、なかなか良い案が浮かばず年月が経ってしまいました。

平成四年の総会の時、江草四郎翁より、「早く有効に使って欲しい」との、再度の要請がありましたが、やはり実行には至たりませんでした。

平成十三年、堀　岩夫事務局長の呼びかけで、田代敬二現理事がその意を受け、行田青年会議所OB有志に集まってもらい、江草基金の活用について活発な意見交換をしました。集まったメンバーは次の通りです。

堀　岩夫、清水　孝男、増田　尚（故人）
田代　敬二、渡辺　栄一、坂巻　敏夫、
山本　憲作、矢澤　大和、中川　邦明、
小山　博　各氏十名

結論は、忍郷友会の目的に則り「貴重な江草基金は人材育成に使うべし」ということになり、一年百万円、十年で壱千万円を使い切るにふさわしい事業をという事で、①中高生を対象にした三端懇話会開催、②幼児児童を対象にした読書推進事業、という二つの目標を立てました。　そして今日まで順調に事業を進めてまいりました。現在の忍郷友会に事業らしい事業が出来るようになったのは、この江草基金なくしてはとても出来ないことでした。

旧忍藩士江草家出身有斐閣第三代社長江草四郎氏の御霊に感謝の祈りをささげ、㈶忍郷友会が更に行田の人材育成に貢献することを誓います。江草家の益々のご繁栄を心からご祈念申し上げます。

第９回 講師
天野　亨氏と盲導犬

第７回 講師 江利川 氏

三端懇話会　10年の軌跡

財団法人　忍郷友会

忍郷友会では教育の方法として、子供に感動発奮の機会を与えることが大事と考えておりますが、中でも子ども達が一流の人物に会い、その謦咳（けいがい）に接して、親しく懇談や食事を共にすることは、正に生涯忘れない思い出になると思います。一流人の人生観や経綸（けいりん）の気概と生き様に触れることは、彼等の人間性と志を啓発する、大きな端緒になると信じております。

そこで平成13年以来、本会では毎年当代一流の人物を招いて、市内にゆかりの中高生で将来祖先を敬い、国家や故郷に貢献できる有用な人材として、期待できる子ども達を引き合わせる「三端懇話会」を開催しました。

催しの内容は、

優雅な一流の場所（霞が関ビルの34階の眺望のよい部屋）で、一流の人物と出会い、講演を聴き、懇談をし、フルコースの美味しいフランス料理を楽しく語り合いながら会食してもらいました。人数は中高生20人で、感動を共有することから素晴しい友情が、芽生えることを信じております。

過去10回の講師は次の方々です。

第１回	諸井　虔 氏	（故人　太平洋セメント元社長）
第２回	野村　東太 氏	（故人　ものつくり大学元学長）
第３回	松林　宗恵 氏	（元東宝映画監督）
第４回	徳川　恒孝 氏	（徳川宗家第18代ご当主）
第５回	揚　　興新 氏	（ヤンシンシン、胡弓演奏家）
第６回	片倉　邦雄 氏	（元駐イラク大使）
第７回	江利川　毅 氏	（現人事院総裁）
第８回	丸山　　晃 氏	（埼玉新聞社代表取締役）
第９回	天野　　亨 氏	（盲目の声楽家）
第10回	小野田寛郎 氏	（(財)小野田自然塾　理事長）

「三端」の意味

日本の近代化を成し遂げた明治維新の最大の功労者と云われる吉田松陰が、士たる者の心得として、従弟に贈った言葉、後に松下村塾の規則とされた「士期七則」には、以下の三つの端緒を行うことを通じて、その心を体現することができるとあります。（士期七則、約して三端と為す）

1．志を立てて以て万事の源と為す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・立志
2．交を択（えら）びて仁義の行を輔（たす）く。・・・・・・・・・・・・・・・・択交
3．書を読みて以て聖賢の訓（おしえ）を稽（かんが）ふ。・・・・・・・・・・・読書

平成二十二年度　会員名簿

法人会員

㈱シンセイ開発
㈲羽生モータースクール
医療法人　葦の会
㈱有斐閣
大野建設㈱
公認会計士
大久保会計事務所
㈲中央百貨店
ガクヤ㈱
東旭㈱
小山商事㈱
㈱清水アーネット
ベルヴィ　アイトピア
㈱協同バス
田代商事㈱
㈱サンワックス
㈾行田セレモニー
渡辺㈱

役員

青柳　憲助　　新井　啓介
飯塚　利男　　飯田　芳幸
井上　啓子　　岩崎　安裕
永島　健雄　　江草　祥子
江原　史郎　　江利川　毅
大澤　　誠　　大谷　純一
小川　雅以　　小澤　誠邦
加藤　力也　　木嶋　　清
木元　紘一　　倉持成一郎
木暮　照子　　斎藤　準一
清水　義夫　　鈴木貞二郎

新井　　誠　　新井　友一
五十幡和彦　　市川　芳正
石井　義則　　碓井　勝也
江草　忠敬　　榎本　晃三
大野　年司　　遠藤　初枝
奥貫　健一　　岡安　徳一
大久保　毅　　加治　久明
川辺　秀夫　　木村　　義
小池　俊輔　　黒渕　陽夫
小菅　克祥　　清水　龍男
小山　　博　　清水　孝男
清水　利一　　鈴木　秀憲
田代　敬二　　山田　　晃
横川　福治　　渡辺　栄一

正会員

㈳行田青年会議所
戸ヶ崎直司　　戸塚　義男
長島　康男　　西澤　　脩
橋本　恭一　　長谷川雅敏
藤倉　　浩　　古市　　實
細井　保雄　　堀　　岩夫
松平　忠昌　　松平由美子
松本　皓一　　水谷　剛蔵
武笠　　勇　　村賀　英介
八木原　保　　矢澤　大和
山本　憲作　　横田　保良
渡辺　久記　　綿貫　守男

秋山　　節　　渥美　大童
鮎川　　渡　　新井　昌夫
飯塚　正夫　　五十嵐亥三生
今井　福司　　今津利之助
丑久保紀美　　内田　善康
遠藤千枝子　　及川　礼子
大須賀伊司郎　　大谷　龍良
大西　義道　　大谷　　昭
岡田　則之　　荻野谷麗子
小沢　健一　　小澤光太郎
折井　幸子　　柿沼　京子
粕谷　悦昭　　加瀬田　健
加藤　一夫　　加藤　元三
鎌田　　実　　鴨田　　武
川島　清実　　川島　　亨
川鍋　重寿　　川鍋　友行
木村　洋子　　木村　忠夫
倉田　君子　　倉田　耕市
黒川　良子　　小池聰太朗
小久保和子　　小島　成一
小林　一好　　小林　邦雄
小林　晴夫　　小林　義和
大岡　　仁（埼玉県信用金庫　行田支店長）

瀬山　文孝　　阿部秀二郎
中川　邦明　　飯島　千裕
根岸　仁司　　井桁　浄継
福島　伸悦　　植田　次郎
保泉　欣嗣　　江草とみ子
松岡　由浩　　大嶋　康三
松本　　尚　　大友　　務
宮川　公男　　大谷　安雄
諸貫　健一　　奥田　七寿
柳原　承光　　小幡　和佑
吉川　正就　　柿沼　　満
片桐　章雄　　加藤　誠一
川島　　清　　川田　隆生
岸　誠太郎　　国島　正江
栗原　省三　　小池　利昌
小島　敏男　　小林　敏則
小山喜一郎

宮崎　和雄（埼玉りそな銀行　行田支店長）
斎藤　　勲　　斎藤　慶一　　斎藤　　恒
坂田　幸彦　　坂本　光代（群馬銀行　行田支店長）
佐藤　良明
正田　善洸　　里見　義臣（進修館高校　校長）
杉田　禮三　　須郷　栄司　　須郷　和美
須郷　　隆　　鈴木　寿子　　鈴木　淳一　　鈴木スイ子
関根　俊一　　鈴木　康子　　鈴本　達哉
田熊　宏次　　高橋　貞雄　　滝田　和夫
田生　泰子　　田島　博夫　　田島　正雄
棚沢　孝一　　津田　　馨　　田中　利幸
冨田　久雄　　富田　暁子　　藤間　圭一
長島　　豊　　永沼督一郎　　長野　武俊
新島　璋紀　　野口　昭夫　　信沢　精一
野村　正幸　　芳賀　道子　　蓮見　牧子
長谷川賢治　　長谷川幸司　　長谷川志づ枝
長谷川盛雄　　畠山　貞子　　畠山　恒雄
羽鳥　利明　　羽鳥　　弘　　半田　　太
東　　瑞芳　　平井ユリ枝　　二味　　宏
古市　恒裕　　古沢　勇治　　増山　忠男
町田　祥子　　松岡　圀男　　松田　招蔵
松本　健一　　松本　光弘　　丸山　和雄
丸山　綱男　　三島　　務　　水谷　良一
武笠　直義
北上　　博（武蔵野銀行　行田支店長）
最上　絹江　　最上正太郎　　持田　朋春
本山　　浩　　森　　安正　　森田純之助
矢口隆一郎　　矢嶋　義和　　安田　裕信
安野　崇雄　　柳瀬とし子　　山田　映子
山本　正幸　　横山　　潔　　吉田　　修
吉田　寿夫　　吉田　　稔　　若松　良一
渡辺　邦道　　渡辺　幸子

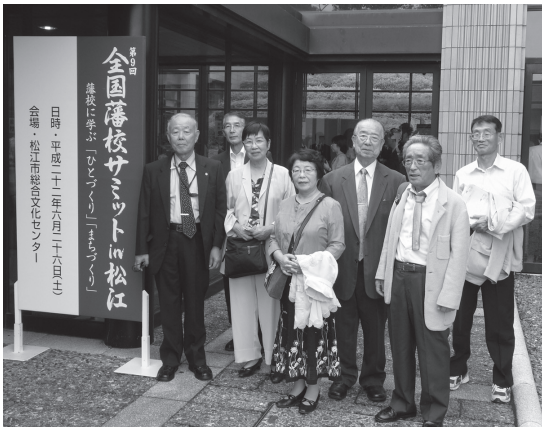
（平成二十二年十一月三十日現在）

第九回　全国藩校サミット 松江大会の報告

事務局　遠藤初枝

松江に来てごしなって
『だんだん　だんだん』

平成二十二年六月二十六日㈯第九回全国藩校サミットが越前松平家ゆかりの城下町松江市で開催されました。全国から藩主のご子孫や関係者、及び歴史関係者や松江市民等約一二〇〇名が集い盛大な大会となり、いつもは静かな(だそうです)城下町が盛り上がっていました。松江市の表玄関、松江駅前には、全国からのお客さまを迎える歓迎の旗とともに、何台もの観光バスが待機しており、私たちを会場（松江市総合文化センター）まで運んでくれました。

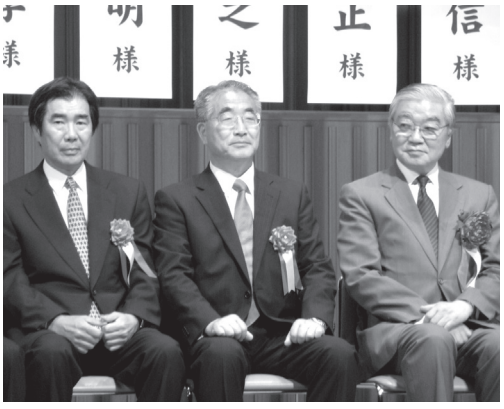


テーマ
藩校に学ぶ
「ひとづくり」
「まちづくり」

サミット会場では、歓迎芸能、勇壮な『佐陀神能』で始まり、主催者三重野康漢字文化振興会会長のあいさつがあり、松浦松江市長が江戸時代の松江藩についてお話をされました。松江藩の公的教育機関藩校「修道館」では儒学、国学はもとより、語学、兵学、医学など洋学を積極的にとりいれ、語学では、英、仏、蘭を教授し、医学では地元の医者を長崎に派遣し、蘭方医学を学ばせるなど、きわめて高い水準を保ち、また私塾や寺子屋も隆盛を極めていたそうです。本年は築城四〇〇年にあたり、市をあげて開府四〇〇年祭の諸行事が開催されているとのことでした。

藩主・藩校紹介

北は青森（弘前藩）から南は鹿児島（薩摩藩）まで三十八藩の藩主・藩校を漢字文化振興会事務局長白石宗靖氏により詳しく紹介されました。壇上には徳川宗家を中心に、歴史の教科書やドラマに出てくる有名な藩など全国の藩主（末裔）様の居並ぶ姿は歴史の好きな私にとってそれはもうドキドキの感動でした。



記念講演Ⅰ

『日本の価値』
徳川恒孝氏
徳川宗家十八代当主

記念講演Ⅱ

『滝川亀太郎先生と「史記」』
石川忠久氏
前二松学舎大学学長

論語素読

松江市立長江小学校
長江小学校は全校生徒が三十六名という小さな小学校ですが、一年生から六年生まで全員が参加して、論語の素読を堂々と発表しました。

映像紹介

「松江の藩校・私塾・寺子屋について」

交流会

午後七時から、会場を市内“ホテル一畑”に移して盛大に交流会が開催されました。郷土保存会による華やかなアトラクションが座を盛り上げ、全国から集まった藩校関係者の和やかな交流の場となりました。最後に次期開催地茨城県水戸市の、水戸市長の力強いあいさつを頂き、万歳三唱で閉会になりました。

次期開催地：水戸市関係者の挨拶

松江は藩校教育の成果により数多くの偉人を輩出しています。彼等が国際的にも活躍出来たのも、儒学とともに洋学が藩校における松江の教育の礎になっていたとのことですが、改めてこのサミットは教育の歴史を学び、高い水準を誇った藩校教育を見直し、教育の重要性、そしてこれからの日本の教育について考えさせるとても良い機会でした。

また松江市は観光地としても充実しており、翌日二十七日の視察研修では、松江城を始め、市内随所にある観光地をめぐる“城下町めぐり”が人気を集めていました。

そして菓子文化と茶の湯文化が市民の中にも深く根付いている松江市ですが、歴史的にも茶人として名高い七代目藩主松平不昧公のお膝元、きっとおいしいお菓子とお抹茶が出てくるに違いないと期待していましたが、そのようなことはありませんでした。

平成二十四年七月

第十一回 全国藩校サミット 行田市において 開催決定!!

平成二十二年度 事業行事経過メモ

1、会議

（一）総会

①定時総会（会務報告、講演会・懇親会）開催

日時　平成二十二年六月十三日㈰
　　参加者八十四名
　　午後二時～八時
会場　行田市・ベルヴィアイトピア
来賓
　人事院総裁　江利川　毅様
　行田市副市長　羽鳥　利明様
　行田市議会議長　大河原梅夫様
　埼玉県議会議員　鈴木　聖二様
　衆議院議員本多平直秘書　小池　厚様
　行田市教育委員長　保泉　欣嗣様
　行田市教育長　丸山　綱男様
　行田商工会議所名誉会頭　清水　孝男様
　行田商工会議所会頭　鈴木　秀憲様
　行田商工会議所副会頭　川辺　秀夫様
　行田ロータリークラブ会長　冨田　久雄様
　行田さくらロータリークラブ会長　新井　啓介様
　行田青年会議所理事長　新井　重人様
　忍藩主阿部家二十二代当主　阿部　正靖様

松平忠昌議長より平成二十一年度の事業および決算、監査について報告があった

記念講演
「四十年の会社生活を振り返って」
～グローバルビジネスの中で～

講師　小林　邦雄様
　元㈱ルネサステクノロジー
　常務取締役
懇親会　アトラクション
　牧川修一・典子　様
　～時は歌ともに～
　唱歌からオペラまで

（二）役員会

①理事・監事合同準備会

日時　平成二十二年四月二十二日㈭
　　午後三時～四時三〇分
会場　行田本部事務所　会議室
審議事項
　1　平成二十一年度事業報告書（案）について審議
　2　平成二十一年度収支決算書（案）について審議
　3　平成二十一年度の事業・決算に係わる監査
　4　平成二十二年六月十三日㈰総会開催について
　5　その他

定時総会日に開催される理事会・評議員会に提案する審議事項並びに総会報告事項の決定、総会の運営進行等について打ち合わせ

②評議員会・理事会

日時　平成二十二年六月十三日㈰
　　午後二時～三時二〇分
会場　ベルヴィアイトピア
審議事項
　1　平成二十一年度の事業報告がなされ審議・承認
　2　平成二十一年度の決算報告がなされ審議・承認
　3　平成二十一年度の事業に係わる監査について報告された
　4　その他

③理事・監事会

日時　平成二十二年九月十七日
会場　行田本部事務所　会議室
審議事項
　1　新法に基づく忍郷友会の対応について
　A、新しい定款（案）の審議

B、資金計画と役員構成について
C、東京支部拡大について
2　二〇二三年一月賀正会について
3　藩校サミット(準備)について
4　漢文検定試験について
5　その他

④理事・監事合同準備会
日時　平成二十二年十一月十七日(水)
　午後三時～五時三〇分
会場　行田本部事務所　会議室
審議事項
1　平成二十三年度事業計画(案)について
A、「進脩塾」事業計画案について審議
B、「浮城のまち行田少年の主張大会」事業計画案について審議
C、「三端懇話会」事業計画案について審議
D、「読書推進実行委員会」事業計画案について審議
2　平成二十三年度予算(案)について審議
3　平成二十三年一月の理事会・評議員会、総会・賀正会の日程について
　小山博事務局長より平成二十三年一月二十二日(土)に開催したいとの提案があり審議
4　その他

2、教育奨励事業

①進脩塾活動
公開講座
第七回「行田市漢字文化講演会」と「素読教室発表会」
日時　平成二十二年八月二十八日(土)　午後一時三〇分～四時
会場　行田市商工センター　大ホール
講師　村山吉廣 先生
『進脩館を支えた教授陣と、はばたいた俊秀たち』
受講者　一三〇名

定例講座
四月「孟子」荒井　桂 先生
五月「孟子」荒井　桂 先生
八月「行田市漢字文化講演会」
　村山　吉廣 先生
九月「孟子」荒井　桂 先生
十月「孟子」荒井　桂 先生
十一月「孟子」荒井　桂 先生
※行田ケーブルテレビにて放映
（内容）進脩塾の目的、講義、受講者の感想、今日の論語から

素読教室の開催
日時　毎月第一、第二、第三土曜日　午前九時三〇分～十一時三〇分
場所　行田市郷土博物館講座室
対象　行田市内低学年児童（四才～八才まで）二十三名
講師　田代敬二、奥田七寿、川田隆生先生
内容　論語・漢詩・孝経・俳句の学習

②「第二十四回・浮城のまち行田少年の主張大会」優秀者表彰
日時　平成二十二年十一月十四日(日)
会場　行田市教育文化センター「みらい」ホール
発表者　市内小・中学校児童・生徒、父兄等二十五〇名参加
　本会、松平 忠昌 会長より記念品を贈呈した。

③第十回「三端懇話会」
日時　平成二十二年八月二十三日(月)
会場　東京霞ヶ関ビル三十四階霞会館
講師　小野田寛郎 先生
聴講者　行田市内の中・高校生二十名参加
　本会から、松平会長、田代、山本、矢澤、清水各理事他七名が出席された。

④第八回読書推進学習会
読み聞かせボランティア（予定）スキルアップ講座と交流会
～読み聞かせからお話へ～
日時　平成二十二年二月十四日(日)　午後一時三〇分～四時
会場　行田市教育文化センター「みらい」第一学習室
講師　小関知子先生（東京子供図書館理事・日本図書協会理事・元三鷹図書館長）
受講者　五十八名

3、運営会議開催

第一回
日時　平成二十二年十月二十七日(水)　午後五時～七時
場所　本部会議室
議題　①各委員会の進捗状況報告
②忍郷友会だより発行について
③藩校サミットについて
④その他

4、慶弔

①叙勲・褒章受章

旭日小綬章

渡辺　邦道　様

②お悔やみ申し上げます

岩崎　利一　様

（平成二十二年五月十日ご逝去）

菱沢　伸浩　様

（平成二十二年八月七日ご逝去）

小池　英輔　様

（平成二十二年十月七日ご逝去）

5、会員増強対策

新入会者紹介（敬称略　入会順）

（紹介者　渡辺栄一）

・小林　邦雄

高崎市下滝町六十―十二

㈱日立超ＬＳＩシステムズ

監査役

・小島　成一

羽生市東七―十五―八三―十三

・畠山　恒雄

行田市天満七―二十一

・畠山　貞子

行田市天満七―二十一

・田島　博夫

行田市長野十八二十―六

㈱田島エ―ジェンシ―代表取締役

（紹介者　小山　博）

・大久保　毅

行田市長野二十二九―三十三

大久保会計事務所　代表取締役

（紹介者　滝田和夫）

・斉藤　勲

行田市谷郷十一五―十二

（紹介者　倉田耕一）

・倉田　君子

静岡県賀茂郡河津町峰六五三―十八

（紹介者　松岡圀男）

・折井　幸子

行田市中央七―十七

（紹介者　斉藤準一）

・中川　忠昭

行田市城西三十六―一　桃林寺住職

（紹介者　松平忠昌・東　瑞芳）

・最上正太郎

鎌倉市玉縄十一十一四　最上国際特許事務所代表

・最上　絹江

鎌倉市玉縄十一十一四

（紹介者　東　瑞芳）

・粕谷　悦昭

南埼玉郡宮代町二十三―三十二

（紹介者　松平忠昌・渡辺邦道）

・藤間　圭一

羽生市東七―十―四

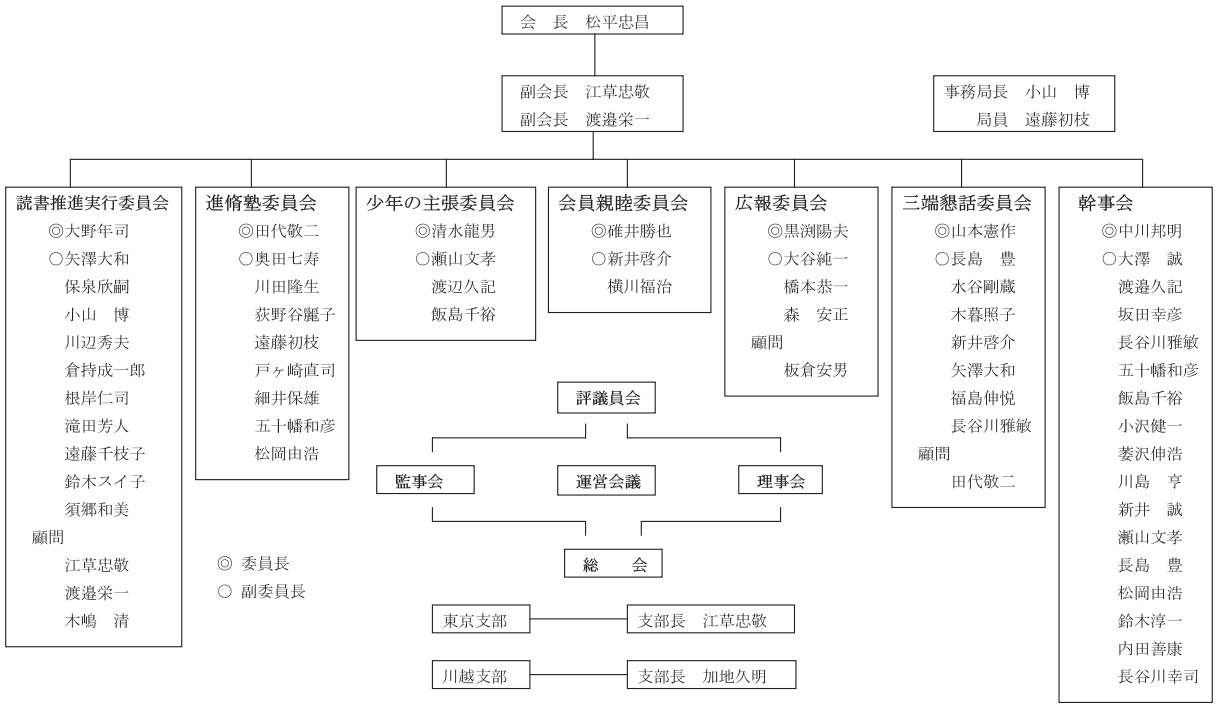
（紹介者　松平忠昌・田代敬二）

・山田　映子

行田市桜町十七―十七　華道家

合計　十五名

（財）忍郷友会・運営組織図



みすじの糸に魅せられて…

井上啓子

私の人生と芸の師匠でもあった母。振り返れば私の人生は母という船頭と二人三脚で同じ船を漕ぎ続けたものだった。その母という船頭が逝って七年の歳月が経った。

母の死とともに固くしっかりと結ばれた私たち二人の船の艫綱（ともづな）はその後しばらく解かれることもなく、そのまま時間だけが経過していった。そして今、私は「残された自分の人生は、あと何年あるのだろう」と改めて考えた。船頭の居なくなってしまった船の艫綱を解いて、もう一度海原に出てみよう、これからは心のたけを唄ってみよう、弾いてみよう、と決心した。

江戸の粋、いなせ、恋の情など母から伝えられた端唄、俗曲の世界。今まではためらいもあったけれど・・・でも私が役者なら、「下町のおかみさん」、「花柳界に生きるひと」、「恋するひと」、「罪人（つみびと）」・・・などなど、まったく経験したことのない人物も演じきらなければならない。「それを唄で演じてみよう」、そんな思いを今、私の人生の年輪が後押ししてくれた。

私の人生。それは三味線と唄とずっと一緒に歩んできたものだった。民謡、端唄、俗曲、新内など、日本の情緒と人の心を唄うそれらすべてが、私の心を魅了した。

「庭の桜に朧月（おぼろづき）」、「八重に咲く気はさらにない」、「虫の音時雨」「縁でこそあれ末かけて」、「末は袂をしぼると知らで」・・・風ひとつとっても「やませの風」、「追風（おいて）」「東風（こち）」、雨であれば「時雨（しぐれ）」、「五月雨（さみだれ）」、「通り雨」、雪ならば「淡雪」、「初雪」、「細雪」など。

日本ならではの豊かな自然と日本人の心に宿る「侘び」、「寂び」や「憂い」などといった独特の感性など、日本の言葉でなければ表現出来ないそれらの歌詞や唄音（うたね）が、深く私の心に響いた。

現代（いま）は西洋の文化が日本の文化となり、片隅で慎ましく生きる和の文化、数十年後の日本の和の文化は・・・日本の文化とそこに息づく唄に魅せられてそれとともに歩んできた私は、ちょっぴり心に秋を感じつつ、「みすじの糸」に魅せられて、今日もまた、「和の唄音」を奏でています。

平成二十二年十月吉日

川柳

小沢　誠邦

白寿まで生きるつもりの万歩計

ペン取れば青春時代も思うまま

一穫千金夢見るよりも共白髪

黒白を夫婦喧嘩につけられぬ

たよりない妻だがいれば安心だ

お金より川柳のこすこととする

グローバルビジネスを乗り越えた四十年
小林邦雄氏の情熱・独創と人育てに懸けた職業体験に感銘

渡邉栄一

二年ほど前「私と長野中学で同級生の小林君です」と江利川毅氏（現人事院総裁）から紹介され、酒を酌み交わしたのが小林邦雄さんとの出会いでした。名刺には㈱ルネサス東日本セミコンダクタ取締役社長とありました。その時丁度、テレビの画面には北京オリンピックで優勝した日本女子ソフトボールチームの上野投手が胴上げをされている姿が放映されていましたが「あの子はウチの社員です」と言われたのにびっくりしました。

また、話題の中で「今、当社の三千人の従業員のうち相当な数の方々が派遣社員ですが、このままの状態で果たしてよいのだろうか、本人や家族はもとより、日本という社会の将来のためによく考えねばならないですね。」と経営者の立場から心配しておられる姿を見て、物事を高い視点から考えている方だと強く認識しました。

その後、詳しく小林さんの職業体験と経営理念を伺う機会があって、その人間性と人柄から、私たち実業人が忘れかけている大切な使命感と誠意を学ばせて頂きました。小林さんはサラリーマンであることを強調されておりましたが、厳しいグローバル時代に生きる理想的な経営者の道を歩んだ実業人であり、それは忍郷友会が目指すリーダーのあるべき姿を具現した方で郷土の誇りであると思いました。

そこで是非、今まで歩んで来られた体験やその理念を、会員の皆様にお話いただきたいと講演をお願いしたところ快くお引き受けいただきました。

講演によれば、恵まれた自然環境ではありましたが戦後のベビーブーマーの一人として激しい競争時代に育った小林さんは、日立製作所へ入社後、子会社を含み今日まで四十年以上にわたり一貫して半導体部門の設計や製造に携わってきました。今までに事業責任者として地球単位のビジネス活動をされてきて海外出張も欧州を中心に百回以上に及ぶということです。

その間、オイルショック、ドルショック等の経営環境の激変により、当時、危機に貧していた小諸工場に赴任し、そこで小林さんは危機をバネにして仲間の社員と共に苦労を分かち合い、激励しあい、意識と技術開発力の向上に努めました。

事業はその後、携帯電話機の爆発的な需要増大に恵まれましたが、その反面、激烈な競争を強いられました。しかしそれをチャンスと捉え世界を駆け巡り顧客から直接にニーズを聞き出し、求められた半導体部品（ＨＰＡ）をいち早く開発し生産するなどの努力を重ねました。やがてその努力が報われ業績は向上しました。その結果、その製品は世界最小で低価格、高性能を武器に世界シェア一位となり今もトップグループを競っており、既に出荷累計二十億個を超えた大ヒット製品になりました。その功績により平成十五年には市村産業賞を受賞されました。その内容は「移動体通信用高周波電力増幅器モジュールの開発と実用化」で小林さんのお喜びも一入だった事でしょう。一番の喜びは「実用化」と言う評価対象であり、それだけ多くの製品を世の中に出して雇用を生み出したということも評価されたことにあったそうです。まさに社会にも会社にも貢献し何よりも雇用を増やして社員や家族のために役立ったことなのです。

小林　邦雄 氏

小林さんは「人生は運と努力の掛け算だ」と言われておりますが、世界的な携帯電話機の普及拡大や欧州人の好きな日本情緒溢れる木造温泉旅館の小諸地区での存在などの運をテコにして顧客とのコミニケーションを深めることや組織の危機意識を常に共有する努力の結果、そうした世界に通ずる新製品を生み出せたことが、最大の幸運であったとして、

その仲間たちに感謝しながら講演されていました。

レイバーコストの高さや国境のないビジネス化のなかでも国外に逃げずに、人を大事にし、苦楽を分かち合いながらの雇用を重視した経営方針、「情熱」「独創」「人育て」を常に心がけて、見事に報われた小林さんに賛辞を贈りたいと思います。

「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」の名言を地で行くようなお話ではないでしょうか。

最後に小林さんはこうした経験に感謝しグローバルに自活していける人を育てることセフティーネットを備えながらリーダーを育てることにこれからは微力を尽くしたいと述べておられました。

忍郷友会賞と私

小澤誠邦

昭和十九年三月、私は当時の忍北国民学校初等科六年を卒業することになりました。その頃大東亜戦争は峻烈を極め、我国は大変な時期にあり、わが家は父母と長男の私、長女、次男、次女の六人家族、父は地場産業の足袋製造卸秋山商店を昭和十五年に退職、独立を目指しましたが、戦事徴用され、太田の中島飛行機へ寄宿を余儀なくされ、母は昭和十八年腎臓結核の為、片方の腎臓を帝大病院で摘出手術以後、寝たきりの状況で三年以内の命と云われていました。

そんな状況下でしたが、父母は私の成績が良かったので何とか上の学校へ（当時はそのように云っていた）やりたいと願っていましたが、正直当時の状態では到底無理かと自分では半ば諦めてもいましたが、取り敢えず受験だけは済ませ、忍商業学校へ合格しました。この頃の進学率は大凡十五％位でした。

さて卒業式を控えたある日、担任の玉国先生から卒業式で忍郷友会賞を私が授与されると云うことを聞いたのです。当時の忍郷友会は旧忍藩十万石の士族で構成される権威ある団体で卒業生の内より一名教育奨励の為、表彰するとのことでした。このことを父母に話すと大変喜んで、どんな苦労をしても進学させるからと励まされ、又私も賞の期待に添うよう努力する決心を固め、進学することにしました。

尚、卒業式では忍郷友会より立派な賞状と辞書を頂きました。

さて前述のような家庭の事情でしたので、私は家族の洗濯、掃除、食事をさせた後に登校、警戒警報が鳴ると帰宅したものです。父は二十年六月に戦時動員で出征し、伊豆大島駐屯となり、私は更に忙しい日々を送りましたが、終戦となり、十二月に父が無事帰還しました。戦後校名も、授業内容も大巾に変わりましたが、私は郷友会賞に恥じないように努力、初代の生徒会々長も務め、昭和二十五年三月、行田高等学校を卒業することが出来ました。

卒業後、統制解除があり、父の希望も入れて足袋製造業に従事、時代の変遷と共に業態を手縫地下足袋、作業服卸、作業服チェーンの経営と移る中で、年を経る毎に地元に少しでも役に立ちたいと心掛け、業界団体長から更に清水商工会議所会頭の下で副会頭を務め、各種団体の責任者を歴任、行田ケーブルテレビ株式会社も創立しました。そして平成十七年に藍綬褒章授章の栄に浴し、祝賀会では忍郷友会松平会長のご祝辞も戴き、面目を施しました。

さて私は冠婚葬祭を始めとする総ての日常消費について出来る限り地元行田からの購入費消を心掛けて居りますが、これも忍郷友会賞受賞の誇りがいつも頭の奥にあったからです。

若し、忍郷友会賞をいただなかったら私の人生も変わっていたかもしれません。

忍郷友会賞有難う。

忍・「忍城」と言う不思議な地名の由来とは

水・城まちつくり研究会
永島健雄

私の生まれ育った行田の歴史的な価値がますます評価され、市民の誰もが誇りに思って住める町になることを願っている。同じ気持ちを持つ者と誘い合って微力ながら自分たちで出来る範囲の活動の一環として、行田市民大学を立ち上げ運営委員として郷土史の探究に励んでいる。

行田市は北東部には利根川そして、南西部に荒川が流れる。「水と緑」のまちとして緑豊かな環境と、埼玉県名発祥の地、古代史の歴史の宝庫と成田氏の築いた忍城祉等、多くの文化遺産に恵まれた街でもある。これからの21世紀は水の時代ともいわれていますので、この地形をいかし、この水資源を有効活用してこそ行田市の未来が拓けるのです。

行田市は他の町とは異なり、古代史大和朝廷の創世記より、朝廷側は荒川と利根川に挟まれた地域を確保した。ここに前線部隊を派遣してこの東の前線にあてられた人達の歌が「万葉集」東歌である。古代出雲族が当てられ稲荷山古墳から出土した「金錯銘鉄剣」の銘文一一五文字に秘められる。

昭和五十三年（一九七八）この鉄剣銘の発見によって、“古代国家の形成”や“古代社会と文字”の始まりの議論は歴史資料としての価値は計り知れません。現在の学術的研究の原点になった画期的発見です。

これらの大型古墳も昭和十三年に県指定にした、当時の忍町長高城駿様が埼玉県の指定にしなければ、今の古墳群、ほとんどは採土工事によって消失していた事です。（現在の行田史誌の編集の「基」は高城町長の発案でもあります。）

「高城町長の墓誌は清善寺」

忍はその昔「忍保」と言われたアイヌ語で「じめじめとした湿地」オシのこと

東国の方言で「いそ」＝「おし」とも云う、水草の生い茂る地から来ている説もあり、鎌倉時代の吾妻鏡に登場する建久元年十一月に源頼朝入京の行列四十二番に忍三郎・忍五郎と記されているので、鎌倉時代将軍の領地ではないかとも言われる。

更に時代をさかのぼると、「古事記」に登場する人物、忍の名前が入った皇子、命の記名があまりにも多く記載されているので驚きでもある。

大事忍男神をはじめとする忍熊王・忍壁皇子・忍鹿比売命・忍坂大比売・忍坂之大津比売命・忍坂日子太子・忍海郎女・彦忍信命・家主忍男武雄心命・大足産忍大別・忍海漢人・建忍山垂根・正哉吾勝勝速日天忍・穂耳尊・天忍日命・忍海部直・忍山宿禰・布忍入姫命・と忍の名付いた名がある。

もし、この中の誰からと繋がればと思いはひろがる「夢」多き日々です。

俳句

特別寄稿

木嶋　斗川

身に沁むや肩たたき来る利根の風
秋めくや星のつぶやき利根に降る
妻と在る超五十年星月夜

清水　孝男

雲の峰動かず白き意思もてり
端然と独りの思惟の夕端居
夕薄湖（ゆうすすき）は憂いの瞳いろ

短歌

木嶋　清

八十に一つ余裕の誕生日
　母の乳房の思い涌きくる
秋刀魚の目眠りをるかに居て
　高値迷い迷いて買わずに帰る
あばうとがベストよこの世の大体は
　病まず休まず老いて逝きたし

榎本　晃三

つれ添ふて行路に哀しあかね空
　あといくばくのベターハーフに
とほき日の君を抄ひぬ宵やみの
　愛しみ灯すたそがれのいろ
大輪の花火とゆかた小悪魔に
　出会逢ひし夏の仄かな追慕

鈴木スイ子

長谷寺の奥深く立つ観音の
　光る御足に触れて祈れり
五月雨に大極殿の揺るぎなく
　平城京の世紀に蘇る
公園の野点の席の亭主にも
　客にも花の満ちて降りくる

平井ユリ枝

琴の音を父のもとへと届けんと
　ひとり爪弾く秋の夜長に
カイロより久しき友の便りあり
　変わらぬ文字にありし日想ふ
桜舞う花びら通し髪飾り
　川面に写し幼き日々を

俳句

秋かぜに吹かれてわびし愛も死も
うたかたの老いの孤愁に曼珠沙華
ひまわりの彩三昧やゴッホ展

榎本　晃三

寂しさは桐一葉落つ日暮かな
音もなく歩く歴女や城の秋
仲秋や和をいつくしむ最中の月

増山　忠男

大夕焼け利根のさざ波生き生きと
利根の辺や星のお喋り天の川
熊谷や終戦前夜の焼夷弾

木嶋　斗川

野に山にコスモス咲くや道しるべ
近き灯も遠きあかりも秋ともす
わが袖に素直なトンボ追い難し

今井　福司

六地蔵新たな帽子秋彼岸
心地よき風のささやき里の秋
朝日より夕日が映える麦の秋

松岡　圀男

主逝って荒れたる庭に菊揺るる
夢覚めてさらに夢追う晩夏かな
扇状の山間光る代田かな

阿部秀二郎

胸奥に微笑のあり秋うらら
優しさと強かさあり秋桜
待つこころ待たるる心風光る

清水　孝男

こだわりをさらりと脱ぎて更衣
後悔は先を歩かず秋の坂
人の世を斜めに見つつ秋の月

折井　幸子

もくせいの秋がしみ入る散歩道
身の丈に合うひかり浴び山法師
夏落葉声なき声の風はしる

三島　務

天を突く神鶏の声夏来たる
蛍見に一揆の里に赴かん
帯解きてへなへなとなる暑さかな

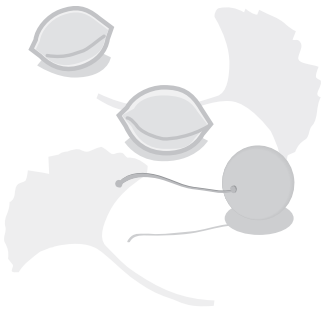
鈴木スイ子

禅寺の芋名月の甘露酒
無双月うさぎも酔いてしまいけり
いわし雲幼き友の行方かな

平井ユリ枝

秋惜しむ木漏れ日揺らぐ苔の庭
人の訃を聞くや静かに秋扇
思い切り捨てる身軽さ更衣

遠藤　初枝



東京谷中、天眼寺の檀家の皆さんが行田を見学に訪れました

天眼寺は、台東区谷中にある臨済宗妙心寺派の寺院で、奥平松平家の菩提寺です。檀家さんの中には、旧忍藩ゆかりの方々が大勢おられます。

本年五月二十九日㈯、ご住職の東瑞芳さんの呼びかけで「天眼寺開基　忍松平家ゆかりの地を歩く」というバス旅行を企画したところ、約四十名の方のご参加があり、東瑞芳さんに引率されて行田市を訪れました。

当日はお天気にも恵まれ、当会から渡辺副会長と小山事務局長が案内役として同行されました。行田市郷土博物館、忍城御三階楼、桃林寺、さきたま史跡の博物館、天祥寺、水城公園など見学され、それぞれで関係者の説明を受けました。また郷土博物館では、子供たちの素読教室の授業も見学されました。

富士見寿司で会食、十万石ふくさや水城公園店ではお買い物をされるなどして、夕刻楽しそうに帰京されました。

参加者の先祖ゆかりの行田市を大部分の方々は初めて訪ねられ、行田の自然風景と町並み、歴史にまつわる旧跡や寺院、そして記念物など見学され、行田への興味や想いを深められたものと思いました。

行田が生んだ木板画の鬼才　渥美 大童 さん〝九十九才記念展〟を開催

平成二十二年十月二十二～二十四日、行田市駒形、遍照院駒形薬師において、当会会員渥美大童さんの九十九才の記念展が開催され、多くの板画愛好家が訪れました。渥美さんは、明治四十四年十二月行田市埼玉に生まれ、父岳堂の指導により書の道に進み書家として大成した。その後棟方芸術の素晴らしさ、偉大さに深い感銘を受け、棟方志功を師と仰ぎ愛弟子となった。後に師の後援会長となり郷土行田の地にあって棟方芸術を受け継がれ、素晴しい作品の数々を次々に世におくりだしたことは、郷土の誇りであります。

志功ゆずりのバイタリズムをもった奔放で力強さのある作品は、昭和五十一年には名誉あるスペインバロセロナ展に出品し準大賞の栄に輝き、国際的にも名声を博しました。また氏は公共の施設にも数多くの力作を寄贈されるなど、社会奉仕活動も活発に行っており、これらの功績により昭和五十二年に紺綬褒章を授章されました。

九十九才というご高齢にも関わらず、とてもお元気で創作意欲も少しも衰えることなく益々拍車がかかっています。百才に向かって健康に留意されて益々のご活躍を期待しております。

渡辺 邦道 氏 旭日小綬章受章される

今般、本年春の叙勲において渡辺邦道さんは、永年にわたる地方自治の振興と市政の発展に貢献されたご功績により、旭日小綬章の栄に浴されました。誠におめでたい限りでございます。

有志の方々により平成二十二年九月五日㈰行田平安閣において祝賀の宴が催されました。日頃の交友の深さを反映して二百五十余名の著名人が集まり大変盛大な祝賀会でした。

これからもますますのご健闘をお祈りいたします。

日本で初めての「漢文検定試験」実施される

論語・漢詩の検定試験が平成二十二年十二月四日㈯午前九時二十分から行田市郷土博物館講座室において行われました。

当日は、日本の漢文学において最も権威のある殿堂、湯島聖堂内公益財団法人斯文会、漢字文化振興会の白石事務局長が審査委員長としてお見えになりました。

今回は、当会の素読教室二十六名の児童が、「寺子屋の部」初級・中級・上級にそれぞれ分かれて受験しました。審査員の前でドキドキ緊張しながらも、堂々と日頃の成果を発揮して合格を目指しました。

この検定試験は来年度から第一回漢文検定試験として全国的に実施されることになっており、今年度は試行としてこの難関に素読教室の児童が挑戦したものです。

合格者には、㈶斯文会から「合格認定証」と記念品が贈られます。

御名刺掲載欄

（順不同）

行田市

市民の皆様と共に築く「元気な行田」の実現に向け、皆様のご理解とご協力をお願いします。

行田市議会

財団法人忍郷友会
会長
松平忠昌
〒214-0038 川崎市多摩区生田六―一五―三六
☎〇四四―九五五―九三三六

特別会員
白河藩阿部家二十二代当主
阿部正靖
〒297-0057 千葉県茂原市中善寺一一〇九―八
電話 〇四七五―二六―五五七九

株式会社 ケイマス
代表取締役
黒渕陽夫
〒361-0074 埼玉県鴻巣市赤城台三六二―二一
TEL〇四八―五六九―二二五一
FAX〇四八―五六九―二二二一

公認会計士
奥貫健一
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷三―一―十五―四〇一

天眼寺住職
東瑞芳
〒110-0001 東京都台東区谷中一―二―十四
電話 〇三―三八二一―七七一八

小川工業株式会社
会長
小川雅以
本社 埼玉県行田市桜町一丁目五番十六号
電話行田（〇四八）五五四―四一一一番
ファクス（〇四八）五五三―三四四四番

棚沢書店
古本買入
棚沢孝一
〒113-0033 東大正門前
文京区本郷六―一八―一二
☎〇三―三八一一―〇三四一

大野建設株式会社
代表取締役
大野年司
〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目四番三号
電話 〇四八（五五三）〇一〇〇

財団法人若葉会
若葉保育園
園長
保泉欣嗣
〒361-0073 埼玉県行田市行田十一―十
電話（〇四八）五五六―二七九七

行田市日本中国友好協会
行田市俳句連盟
木嶋清（俳号斗川）
〒361-0001 埼玉県行田市北河原六三〇
電話・FAX（〇四八）五五七―〇二七三

ガクヤ株式会社
代表取締役社長
小池俊輔
〒361-0072 行田市宮本五―十八
☎〇四八―五五三―四一四一

榎本晃三
〒361-0057 行田市城西四―三―八
☎〇四八―五五四―〇〇三八

三共印刷株式会社
代表取締役
大谷純一
埼玉県行田市富士見町二―一―三〇
TEL〇四八―五五六―六二〇一

山本食品工業株式会社

山本正幸

〒361-0025 埼玉県行田市埼玉四八六一
電話 〇四八―五五九―二一一一

東旭株式会社

代表取締役社長 小菅克祥

〒三六一―〇〇一六
埼玉県行田市藤原町一丁目六―一
TEL(〇四八)五五六―四五五一(代)
FAX(〇四八)五五六―四五五六

進脩塾素読教室

主幹 田代敬二

〒214-0038 行田市行田六―一六
☎〇四八―五五六―三七二八

大岡産業株式会社

代表取締役 大澤誠

〒361-0062 埼玉県行田市谷郷一三二〇―一
TEL 〇四八―五五三―〇一二八
FAX 〇四八―五五三―二六八一
携帯 〇九〇―一六〇二―六一六〇
http://www.ookasangyo.com/

渡辺株式会社

代表取締役 渡辺栄一

〒361-0073 行田市行田一―四
電話 〇四八―五五六―三一四六
FAX 〇四八―五五六―一二八八
自宅 〇四八―五五六―八九六八

松雲山 長光寺
曹洞宗 久寶山 興徳寺
雲峯山 東泉寺
住職 福島伸悦

（連絡先）
電話 〇四八―五五七―〇九九九
FAX 〇四八―五五七―二三四七
埼玉県行田市下中条一六一九―二
E-Mail kotokuji@muc.biglobe.ne.jp

山本商事株式会社

東京海上日動火災保険株式会社(株)代理店
東京海上日動あんしん生命保険株式会社(株)代理店

代表取締役 山本憲作

〒361-0074 埼玉県行田市旭町一〇―四三
TEL(〇四八)五五五―二二一一(代)
FAX(〇四八)五五五―三三〇八
http://hoken-yamamoto.co.jp
e-mail:ken@hoken-yamamoto.co.jp
e-mail:info@hoken-yamamoto.co.jp

羽生モータースクール

代表取締役 五十幡和彦

〒348-0036 埼玉県羽生市大字砂山八〇
TEL(〇四八)五六一―二〇〇八
FAX(〇四八)五六一―一五四七
http://www.motorschool.co.jp
E-mail:hanyu@motorschool.co.jp

『蓮花物語　木暮照子作品集』
マリア書房刊

行田市　蓮の大使
木暮照子

(社)日展会友
(社)日本新工芸家連盟会員
蓮文化研究会理事

株式会社 リノン
LINON CORPORATION

代表取締役 新井啓介
ARAI/KEISUKE (Casey)
President

〒361-0038 本社 埼玉県行田市前谷二五
Hoffice : 25 Maeya Gyoda-shi Saitama-ken Japan
TEL : 〇四八―五五五―〇五〇九 FAX : 五五五―三三七九
携帯 (Cell) 〇九〇―三三三四―〇四三四
http://www.linon.co.jp E-mail: arai@linon.co.jp

有限会社 高戸環衛
埼玉県知事登録番号 第5―5105号
貯 第7973号

代表取締役 戸ケ崎直司

〒361-0062 埼玉県行田市藤原町三―十一―二六
電話 〇四八―五五四―一九二〇
FAX 〇四八―五五六―二六二七

地元に密着した住まいづくり
株式会社 ファイブイズホーム

代表取締役 細井保雄

〒361-0056 埼玉県行田市持田三丁目二番一七号
電話 〇四八(五五三)二二二七二

Emborick
NETWORK SERVICE PROVIDER
SAKITAMA-INTERNET

代表取締役 飯田芳幸
yoshi@sakitama.or.jp

〒361-0001 株式会社エンボリック http://www.emborick.co.jp
さきたまインターネット http://www.sakitama.or.jp
埼玉県行田市北河原七〇五番地
GPSアドレス N:36°11′25″ E:139°25′40″
TEL 〇四八―五五七―三二六六(代表)
FAX 〇四八―五五七―三四二二

財団法人忍郷友会

名誉理事 佐藤孝太郎

〒361-0076 行田市天満三―十六
☎〇四八―五五六―一九〇〇

割烹　和可緒

飯島千裕

〒361-0074 埼玉県行田市旭町六―二二
TEL 〇四八―五五四―三三三八
FAX 〇四八―五五四―三三三三

綿貫守男

〒110-0016 東京都台東区台東一丁目三七番一〇号

小澤企画
各種相談・企画・コンサル
代表　小澤誠邦
〒361-0006
埼玉県行田市大字白川戸七〇二―一
TEL（〇四八）五六四―一一一一
FAX（〇四八）五五二―〇五八二

（株）味工房　那のつ
代表取締役　阿部秀二郎
〒361-0023
埼玉県行田市長野一―三三―一〇
電話　〇四八―五五五―一四五〇

創業　文久二年　伝統の味
割烹　魚豊
橋本恭一
TEL〇四八―五五三―三一一三
FAX〇四八―五五三―三一一四

合資会社　青美矢沢商店
無限責任社員
矢澤大和
〒361-0073
埼玉県行田市行田二十―二十五
TEL〇四八―五五六―三一三一
FAX〇四八―五五六―三七七四

株式会社　倉持商店
紺織製品製造本舗・力王たび代理店
代表取締役　倉持成一郎
〒361-0022
埼玉県行田市桜町一―二十一―四
TEL　〇四八―五五六―二九一四
FAX　〇四八―五五三―二二八三

《昭和14年創業》
各種自動車・重機・ラヂエーター販売修理
有限会社　小笠原ラヂエーター工業所
代表取締役　中川邦明
〒360-0023
埼玉県熊谷市佐谷田一四三二番地
TEL（〇四八）五二一―三三九五（代）
FAX（〇四八）五二一―三三八四

株式会社　セティアコーポレーション
代表取締役　岩﨑安裕
〒323-0028
栃木県小山市若木町二―十一―五
TEL〇二八五―二三―八八三三（代）
FAX〇二八五―二一―三五七七

全国ＰＨＰ友の会
関東甲信越地区本部
本部長　加藤力也
〒362-0034
埼玉県上尾市愛宕三―二十―九
TEL　〇四八―七七一―一五八五
FAX
E-mail：show-katou@nifty.com

渡辺株式会社
常務取締役　渡辺久記
〒361-0077
（グラフィック事業部）
埼玉県行田市忍一―五―十一―一〇二
電話　〇四八―五六四―六五二五

地域とともに65年
大久保会計事務所
所長　税理士　大久保毅
税理士　大久保栄吾
税理士　大久保秀彦
〒361-0023
埼玉県行田市長野二九番三三号
電話　〇四八―五五六―六一九五

株式会社　田島エージェンジー
東京海上日動火災保険株式会社
東京海上日動あんしん生命保険株式会社　代理店
代表取締役　田島博夫
〒361-0073
埼玉県行田市行田五一一〇　スリーハートビル2F
TEL（〇四八）五六四―三一一一一
FAX（〇四八）五六四―三一一一三
E-mail：millea-hoken@tajimaagencyco.jp
URL：http://www.tajimaagency.co.jp

行田セレモニー
㈱ヨコカワ
代表取締役　横川福治
〒361-0073
埼玉県行田市行田一一―三三
電話　〇四八―五五六―二二五八

小山商事株式会社
会長　小山博
〒361-0025
埼玉県行田市大字埼玉三三五一
TEL（〇四八）五五九―四一二一（代）
FAX（〇四八）五五九―二五五〇

行田市の現勢

平成二十二年十一月一日

1市役所所在地
〒三六一－八六〇一
埼玉県行田市本丸二番五号
TEL〇四八－五五六－一一一一
FAX〇四八－五五六－一七六六

2市制施行
昭和二十四年五月三日

3面　積
六、七三七㎢

4人　口
八七、三九一人

5世帯数
三三、四四七世帯

6財　政
二四、一四〇百万円
（当初予算）

7市の機構
市　長　工藤正司
副市長　羽鳥利明
委員長　岸田昌久
教育長　丸山綱男
議員定数　二十四名（無所属十八、公明二、日本共産党二）
議　長　野村正幸
副議長　漆原金作

11学　校
大学　一校
専門学校　一校
高等学校　一校
中学校　八校
小学校　十六校

12都市宣言
環境衛生都市宣言
人権尊重都市宣言
平和都市宣言
青色申告の都市宣言
交通安全都市宣言
暴走族追放都市宣言
非核平和都市宣言

13まちづくりの目標
水と緑　個性あふれる文化都市

14産業経済
製造品出荷額　三、二八一億円
（平成十九年）
商品販売額　二、一七七億円
農業粗生産額　四十八億円
（平成十八年）
商店数　九二九店舗
工業事業所数　二五四事業所
（四人以上・平成十九年）

15公共施設
さきたま史跡の博物館
教育文化センター
郷土博物館　忍城御三階櫓
産業文化会館・はにわ館
総合体育館・総合公園プール
市民プール・総合公園野球場
資料館・公民館（十六館）
図書館・古代蓮会館
総合福祉会館・商工センター
風土記の丘さきたま古墳公園
忍城址公園（忍城御三階櫓）
古代蓮の里公園
行田市郷土博物館・利根大堰
水城公園・東照宮

17観光地

編集後記

今年も会報誌を発行する時期となって来た。振り返ると数々の出来事があった年になった気がする。政治の分野でも経済の分野でも多くの変化があり、あっという間に月日が過ぎ去って行った。まだ記憶に残っているのは夏の猛暑ではなかったかと思う。ゴルフやロードバイクなどのスポーツをやるにしても寒い冬よりは暑い夏のほうが好きであったが、暑い日が続く毎日にいい加減閉口して、今年初めて「そろそろ夏とおさらばし、秋の爽やかな風にあたりたい。」と思った。

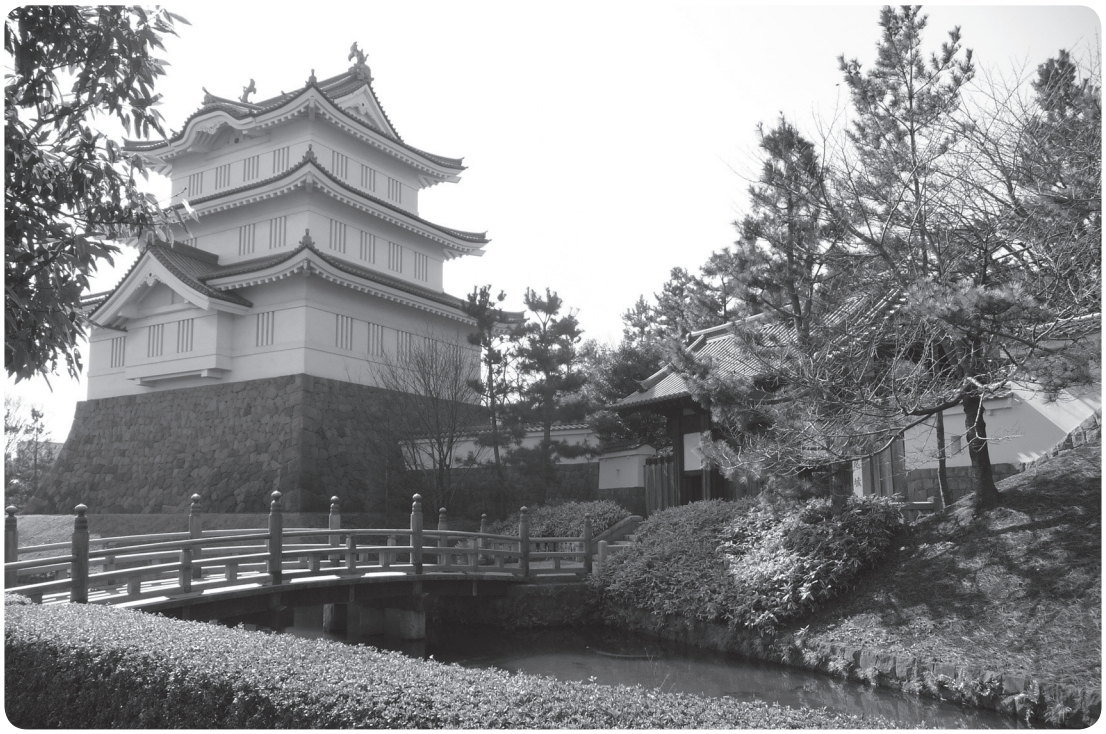
そして十月に入ってからもまだ暑い日が続くと思っていたら、突然北海道で雪が降るようなニュースに接し、夏から一転冬になってしまったようだ。山では暑さから木の実が少なく冬眠に入る前の熊が市街地まで降りてきて、住民の方々に危害を加えたとニュースで報じられた。

さて、当会の今年度の事業も順調に推移しているが、江草基金を利用して平成十三年から市内の中高校生を対象に、国家や地域に貢献できる有能な人材の育成を目的に、開催した三端懇話会が本年で終了した。

また今年から新たに論語・漢詩の検定試験がスタートした。今後全国的に広く発展していくことを心から期待している。そしていよいよ藩校サミットが平成二十四年七月に行田市において開催される。市では準備室を設置し、開催に向けて準備を進めている。この藩校サミットの成功には忍郷友会の会員の皆様の協力なくては出来ないと思っている。ぜひ格段のご協力をお願いします。

平成二十三年は明るくよい年になりますように願っています。

広報委員長
黒渕　陽夫



発行者　財団法人　忍郷友会　会長　松平忠昌
事務局　埼玉県行田市行田五－一〇
（十万石スリーハートビル３Ｆ）
ＴＥＬ．〇四八－五五六－九〇〇〇
ＦＡＸ．〇四八－五五六－九〇〇七
URL/www.oshi-goyukai.or.jp
e-mail/gyouda@oshi-goyukai.or.jp

印　刷
三共印刷株式会社
〒三六一－〇〇二一
埼玉県行田市富士見町二－一－三〇
ＴＥＬ．〇四八－五五六－六二〇一
ＦＡＸ．〇四八－五五六－六二〇四